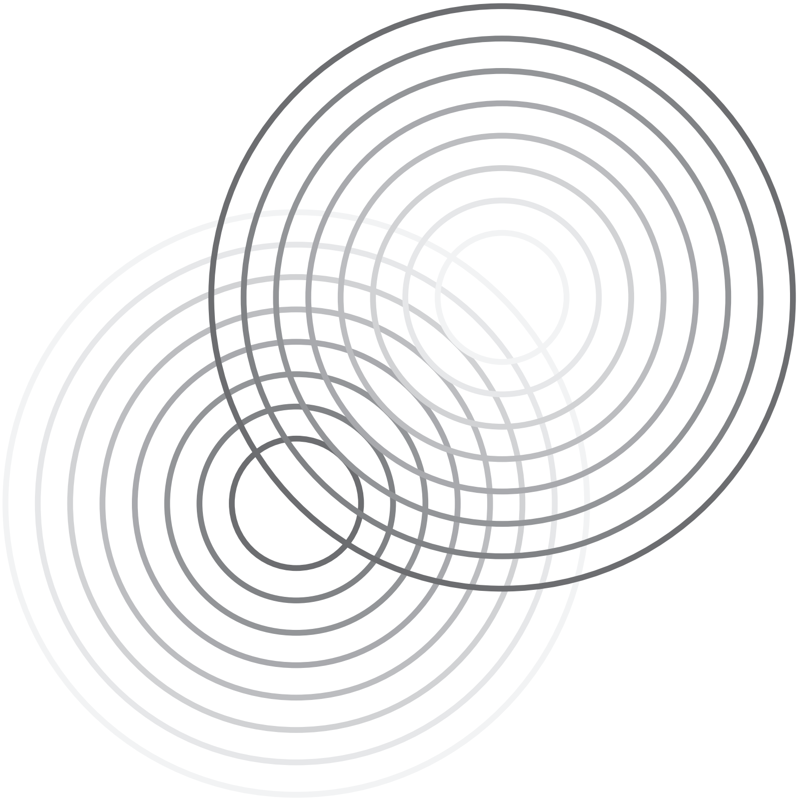
BRIDGESTONE



TPMS B-X1

Tire Pressure Monitoring System

タイヤ空気圧モニタリングシステム

取扱説明書

※必ずお読みください※

はじめに

このたびは「タイヤ空気圧モニタリングシステム TPMS（Tire Pressure Monitoring System）B-X1」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本システムを正しくご使用いただくために、ご使用前に「取り扱い上の注意事項」（2 ページ）、「ご使用の際にお読みください（ご購入いただいたお客様向け）」（6 ページ）、「お取り付けの際にお読みください（販売店様向け）」（24 ページ）を必ずお**読**みください。
また、本取扱説明書は、必要なときにいつでもご覧いただけるよう、手元に保管してください。

取扱説明書の表記について

本書は、ご購入のお客様とシステムの取り付け作業を行う販売店様の共通取扱説明書になっております。
以下のように章ごとに内容を分けて記載しておりますので、ご使用前に該当のページを必ずお読みください。

＜安全に関する注意表示の区分＞

危険	回避しないと死亡または重傷を招く可能性があり、かつ切迫度が高い危険な状況がある場合
警告	回避しないと死亡または重傷を招く可能性があり、潜在的に危険な状況がある場合
注意	回避しないと軽傷または中程度の障害を招く可能性があり、潜在的に危険な状況がある場合
ポイント	製品を安全かつ適正にご使用いただくための説明
メモ	使用中、取り付け・取り外し作業時の注意事項についての説明
必要工具	必要となる工具

取り扱い上の注意事項

危険

・本製品は精密機器です。分解、改造、加工は**絶対にしないでください**。また、それらによる故障や事故に対して、弊社は一切の責任を負いません。

・修理や部品交換の際には、取扱説明書に記載されていないことは**絶対にしないでください**。

警告

・本システムは日本国内用です。電波の使用に関する法律が異なるため、海外では使用できません。

・本システムは、予防警告および便利機能を備えた製品ですが、車両およびタイヤの損傷、その他の事由で発生したいかなる事故に対しても、弊社は一切の民事・刑事上の責任を負いかねます。

注意

・本取扱説明書の一部または全部を無断で複写・転載することは、法律で禁止されています。

・本システムの誤使用や目的外での使用により、使用者あるいは第三者が被った損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。

商標・登録商標

・本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。TM、®などのマークは一部を除き記載していません。

・QR コード ® は、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

・Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ブリヂストンリテールジャパン株式会社はライセンスに基づいて使用しています。

・Android® および Google Play ™は、Google LLC の商標または登録商標です。

・App Store® は、Apple Inc. の商標およびサービスマークであり、米国およびその他の国で登録されています。

目次

はじめに ………… 1
取扱説明書の表記について ………… 1
取り扱い上の注意事項 ………… 2
商標・登録商標 ………… 2

第 1 章 ご購入いただきましたお客様向け ………… 6
ご使用の際にお読みください。(ご購入いただきましたお客様向け) ………… 6
1-1 システムの紹介 ………… 7
(1) タイヤ空気圧モニタリングシステム TPMS B-X1 の特徴 ………… 7
1-2 受信機機能 ………… 8
(1) 受信機 各部機能 ………… 8
(2) 受信機 空気圧表示および低空気圧警告表示 ………… 8
(3) スマートフォンアプリ「TPMS」表示・機能 ………… 9
1-3 システム同梱品の確認 ………… 10
(1) システム構成部品　Type S（スナップインバルブタイプ）………… 10
(2) システム構成部品　Type C（クランプインバルブタイプ）………… 11
1-4 スマートフォンアプリ「TPMS」のインストール ………… 12
1-5 受信機の取り付け作業と電源受給 ………… 13
(1) 受信機取り付け場所の設定 ………… 13
(2) 取り付け面の清掃 ………… 13
(3) 受信機裏面への両面テープの貼り付け ………… 13
(4) USB 電源ケーブルの接続 ………… 13
(5) 受信機の設置 ………… 13
(6) USB 電源ケーブルの配線 ………… 13
1-6 使用時の受信機表示機能 ………… 14
(1) 受信機 LED ランプ表示内容 ………… 14
(2) タイヤ空気圧減圧時の処置 ………… 15
(3) 故障モード表示 ………… 16
1-7 受信機へのセンサー送信機 ID の再登録作業が必要な場合 ………… 16
1-8 スマートフォンアプリ「TPMS」を使用したタイヤ空気圧・温度表示機能 ………… 17
(1) スマートフォンアプリ「TPMS」のインストール ………… 17
(2) メイン画面表示 ………… 17
(3) スマートフォンアプリ「TPMS」の基本設定機能 ………… 18
(4) アプリケーション設定 ………… 18
1-9 受信機が正常に動作しない場合は ………… 19
1-10 デジタルゲージ PMT-T62 の使用方法 (オプション品) ………… 21
(1) 操作方法 ………… 21
(2) 表示機能 ………… 21
1-11 その他の注意事項 ………… 22
(1) 受信機の設定スイッチについて ………… 22
(2) スマートフォンアプリ「TPMS」の設定機能 ………… 22
(3) ランフラットタイヤの警報装置として使用する場合 ………… 22
(4) タイヤチェーンを装着している場合 ………… 22
(5) その他 ………… 22

第 2 章 取り付け作業書 販売店様向け ･･24
お取り付けの際にお読みください（販売店様向け）･･･24
2-1 取り付け部品詳細 ･･･25
(1) センサー送信機 ･･25
(2) 受信機 ･･･25
(3) トリガーツール（デジタルゲージ）･･･26
2-2 センサー送信機のホイールへの取り付け作業 ･･･27
(1) センサー送信機のホイール適合性の確認･･･27
(2) ホイールへの装着判定 Type S（スナップインバルブタイプ）／ Type C（クランプインバルブタイプ）･･･････････28
(3) センサー送信機のホイール取り付け後の確認事項･･29
2-3 Type S（スナップインバルブタイプ）センサー送信機のホイールへの取り付け作業 ･･･････････････････30
2-4 Type S（スナップインバルブタイプ）センサー送信機のホイールへの取り外し作業 ･･･････････････････35
2-5 Type S（スナップインバルブタイプ）センサー送信機の再取り付け作業･･･････････････････････････37
2-6 Type C（クランプインバルブタイプ）センサー送信機のホイールへの取り付け作業 ･･･････････････････38
2-7 Type C（クランプインバルブタイプ）センサー送信機のホイールからの取り外し作業 ･････････････････42
2-8 Type C（クランプインバルブタイプ）センサー送信機の再取り付け作業･･･････････････････････････43
2-9 受信機の設定・登録作業 ･･･44
2-10 受信機への指定空気圧値の設定方法･･45
(1) 指定空気圧値の設定方法･･45
(2) スマートフォンアプリ「TPMS」を使用した指定空気圧値の設定方法･･････････････････････････････46
(3) 受信機の設定スイッチを使用した指定空気圧値の設定方法 ････････････････････････････････････48
2-11 センサー送信機 ID の再登録方法 ･･･51
(1) 概要 ･･51
(2) スマートフォンアプリ「TPMS」とトリガーツール（デジタルゲージ）を使用したセンサー送信機 ID の再登録方法･･52
(3) 受信機の設定スイッチ操作とトリガーツール（デジタルゲージ）を使用したセンサー送信機 ID の再登録方法････55
(4) 受信機の設定スイッチ操作とタイヤ空気圧の減圧を使用したセンサー送信機 ID の再登録方法 ････････････57
2-12 指定空気圧値の受信機設定・登録データの確認方法･･59
(1) スマートフォンアプリ「TPMS」を使用した指定空気圧値の確認方法･･････････････････････････････59
(2) 受信機の設定スイッチを使用した指定空気圧値の確認方法 ････････････････････････････････････59
2-13 各輪のセンサー送信機の受信機設定・登録データの確認方法 ･･････････････････････････････････60
(1) スマートフォンアプリ「TPMS」とトリガーツール（デジタルゲージ）を使用したセンサー送信機 ID の照合方法････60
(2) 受信機とトリガーツール（デジタルゲージ）を使用したセンサー送信機 ID の照合方法 ･･･････････････････61
2-14 受信機シリアルナンバーの確認方法･･63

第 3 章　故障かな？　と思ったら･･･64

第 4 章 付録･･67
4-1 製品仕様一覧･･･67
センサー送信機･･67
受信機 ･･67
USB 電源ケーブル ･･67
4-2 製品の廃却方法 ･･67

アフターサービスについて ･･68

第 1 章

ご購入いただきましたお客様向け

⚠ ご使用の際にお読みください。

TPMS B-X1

ご使用の際にお読みください。(ご購入いただきましたお客様向け)

⚠ 危険

・センサー送信機の取り付けは、必ずブリヂストン推奨 TPMS 取扱店へご相談ください。間違った取り付けは、タイヤの空気漏れ等を引き起こし、事故や損傷につながる危険があります。
・受信機の LED ランプが赤色点滅した際は、低空気圧を示す異常です。この状態になった場合、速やかに安全な場所に停車し、タイヤの状態を確認してください。
・運転中にスマートフォンや受信機を注視したり、操作することは事故・損傷の原因になりますので、**絶対にしないでください**。
・本製品は、法定速度内でご使用ください。サーキット走行等の高速走行には使用しないでください。
・受信機には、水分（液体等）が付着しないようにしてください。内部に水が入り込むと漏電による感電、発火等で製品が故障・損傷する場合があります。

⚠ 警告

・本システムはタイヤの空気圧を表示・警告するものであり、パンク等の急な減圧を事前に予測するものではありません。
・受信機の車両への取り付けは、運転中に見やすい場所に必ず設置してください。
・受信機のタイヤ空気圧の状態表示は、LED ランプのみで行います。(ブザーなどの音を使用した警告は行いません)
・タイヤがパンク状態で走行する、またはパンク修理剤を使用した場合、センサー送信機が損傷する恐れがあります。
・Type S（スナップインバルブタイプ）センサー送信機のゴムバルブは経年劣化しますので、割れや切れ等の損傷がないかを定期的に確認してください。

⚠ 注意

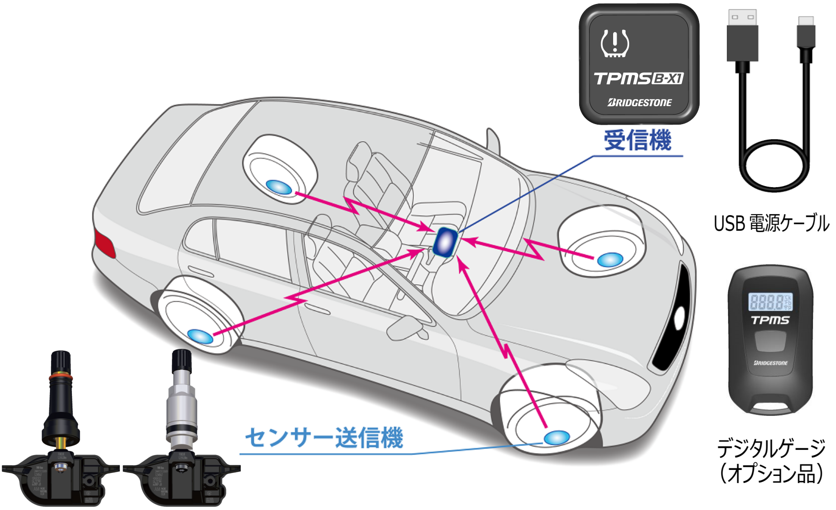
・受信機の LED ランプが黄色に点灯した際は、低空気圧の注意を示します。この状態になった場合は、販売店などでタイヤ点検と空気圧の補充をお願いいたします。
・駐停車中にタイヤ空気圧を検知しない場合は、走行してタイヤ空気圧が検知されるかを確認してください。
・一部の車種では、イグニッションキー（エンジンキー）を OFF にしてもアクセサリー電源に電力が供給されているものがあります。システム通電状態で放置すると車のバッテリーがあがる恐れがありますので、駐車する際はアクセサリー電源から USB 電源ケーブルを外してください。
・本システムは、指定空気圧が 350kPa 以下の車両に使用できます。
・ホイール形状によっては、センサー送信機が取り付けられないことがあります。購入時に販売店にご確認ください。
・スマートフォンアプリ「TPMS」に表示されるタイヤの空気圧および温度は、参考値としてご利用ください。
・Type S（スナップインバルブタイプ）センサー送信機のゴムバルブに付いている赤色 O リングは、センサー送信機の取り付けを示す目印ですので、**絶対に取り外さないでください**。

1-1 システムの紹介

(1) タイヤ空気圧モニタリングシステム TPMS B-X1 の特徴

タイヤ空気圧モニタリングシステム TPMS B-X1 は、走行中のタイヤ空気圧を監視するシステムです。ホイールに取り付けられたセンサー送信機がタイヤ内の空気圧を検知し、車内に設置された受信機へ電波でデータを送信します。

TPMS B-X1 システム構成



品名	機能
センサー送信機	・センサー送信機 ID と各タイヤ内の空気圧・温度のデータを電波で受信機へ送信します。
受信機	・車両の指定空気圧値の設定をします。 ・各センサー送信機の ID を装着位置毎 (左前輪、右前輪、右後輪、左後輪) に登録します。 ・センサー送信機から電波送信された送信機 ID と各タイヤ内の空気圧・温度データを受信し、空気圧低下時には受信機 LED ランプの点灯・点滅で警告します。
USB 電源ケーブル	・車両から受信機への電源を供給します。 （車両側 : Type-A ／受信機側 : Type-C）
デジタルゲージ (オプション品)	・センサー送信機へ電波でデータ送信を行うことを指示し（トリガー通信）、表示ディスプレイにタイヤ空気圧、温度、センサー送信機 ID を表示します。 ・車両に装着されているセンサー送信機 ID と装着位置を受信機に登録する際に用います。（センサー送信機の変更、取り付け位置の変更時）

1-2 受信機機能

(1) 受信機 各部機能

①タイヤ空気圧 警告ランプ

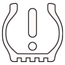
受信機 LED ランプ
LED ランプは、4 色 (緑色、青色、黄色、赤色) を点灯・点滅することで走行中のタイヤ空気圧の状態を表示します。

点灯

点滅

※本取扱説明書では、上記の図にて「点灯」、「点滅」を示しています。

メモ



このマークは、タイヤ空気圧監視装置（TPMS）の警告ランプを示すものです。
これは、タイヤ空気圧監視装置（TPMS）に関する協定規則（UN R141）および
コントロール・テルテールに関する協定規則（UN R121）で定められています。

② USB 電源ケーブル取り付け

USB 電源ケーブル接続部
（USB Type-C）

③受信機 設定スイッチ

設定スイッチ

(2) 受信機 空気圧表示および低空気圧警告表示

空気圧 正常（緑色または青色点灯）

スマートフォン接続時

空気圧
指定空気圧 -15%
（黄色点灯）

空気圧
指定空気圧 -30%
（赤色点灯）

空気圧
150kPa以下
（赤色点滅）

(3) スマートフォンアプリ「TPMS」表示・機能

①スマートフォンアプリ「TPMS」のインストール

以下の URL または QR コードからアプリをインストールしてください。

https://www.tpms.jp/tpms-b-x1/

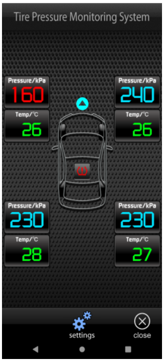
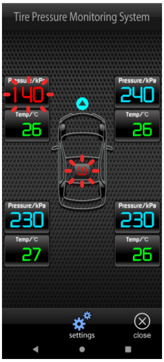
② 受信機とスマートフォンの Bluetooth 接続

スマートフォンアプリ「TPMS」をインストールし、受信機と Bluetooth 接続することにより、各タイヤ内の圧力・温度を観察し、低空気圧警告表示を行うことができます。

スマートフォン接続時は、
青色点灯
(タイヤ空気圧正常時)

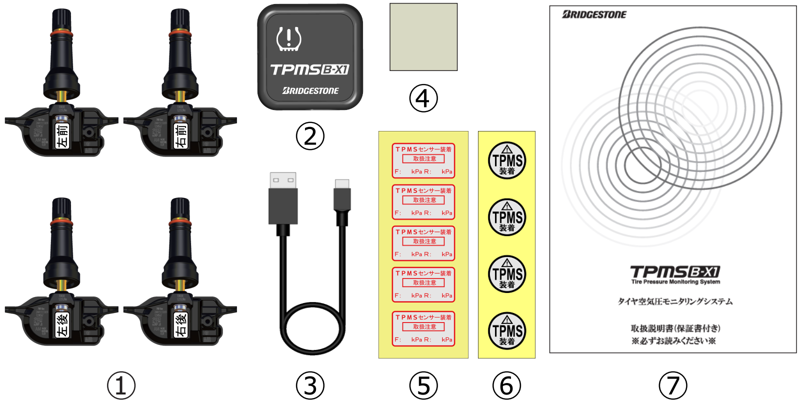
メモ	受信機とスマートフォンの Bluetooth 接続時にペアリング作業は不要です。受信機は、スマートフォンアプリ「TPMS」を起動しているスマートフォンと自動的に接続します。

② 受信機 LED ランプとスマートフォンアプリ「TPMS」の表示内容

青色点灯	黄色点灯	赤色点灯	赤色点滅
正常	指定空気圧 -15%	指定空気圧 -30%	150kPa以下
			

1-3 システム同梱品の確認

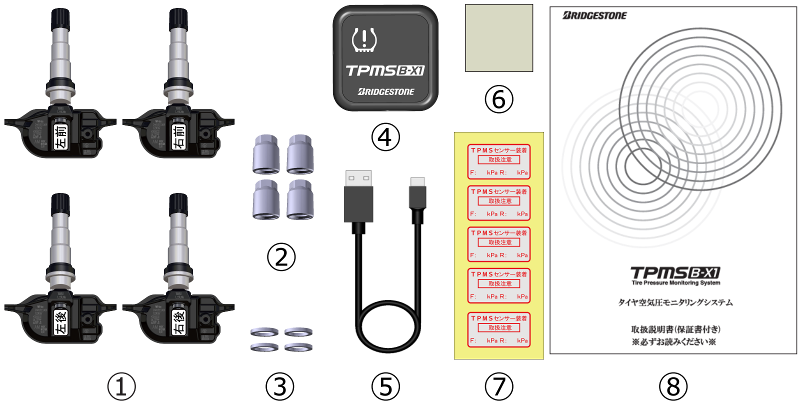
(1) システム構成部品　Type S（スナップインバルブタイプ）



①センサー送信機 Type S (キャップ、バルブコア含む)	4 個	ホイールのバルブ孔に装着します。タイヤ内の空気圧・温度を計測し、受信機にそのデータを送信します。
②受信機	1 個	センサー送信機から送信されたタイヤ内の空気圧・温度データを受信し、LED ランプによって運転者にタイヤ空気圧の状態を通知します。
③ USB 電源ケーブル	1 個	シガーソケット(アクセサリー電源)に装着したカーチャージャー（USB 電源アダプター）または車載標準の USB ポートから電源を供給します。
④両面テープ	1 枚	受信機を車内に設置する際に使用します。
⑤ TPMS センサー装着 警告ラベル	1 シート (5 枚)	各ホイールの内側に 1 枚ずつ貼り付けます。運転席側のピラーには、車両の指定空気圧を記入した後で貼り付けます。
⑥スチールホイール用 警告ラベル	1 シート (4 枚)	スチールホイールへの装着時には、各ホイールの外側に貼ります。
⑦取扱説明書	1 冊	本書です。

⚠ **注意**	製品を開封する際は、同梱されている部品がすべて揃っているか必ずご確認ください。

(2) システム構成部品　Type C（クランプインバルブタイプ）



①センサー送信機 Type C （グロメット、キャップ、 バルブコアを含む）	4 個	ホイールのバルブ孔に装着します。タイヤ内の空気圧・温度を計測し、受信機にそのデータを送信します。
②ナット ③ワッシャー	各 4 個	センサー送信機をホイールに装着する際に使用します。
④受信機	1 個	センサー送信機から送信されたタイヤ内の空気圧・温度データを受信し、LED ランプによって運転者にタイヤ空気圧の状態を通知します。
⑤ USB 電源ケーブル	1 個	シガーソケット（アクセサリー電源）に装着したカーチャージャー（USB 電源アダプター）または車載標準の USB ポートから電源を供給します。
⑥両面テープ	1 枚	受信機を車内に設置する際に使用します。
⑦ TPMS センサー装着警告ラベル	1 シート （5 枚）	各ホイールの内側に 1 枚ずつ貼り付けます。運転席側のピラーには、車両の指定空気圧を記入した後で貼り付けます。
⑧取扱説明書	1 冊	本書です。

⚠ **注意**	製品を開封する際は、同梱されている部品がすべて揃っているか必ずご確認ください。

ポイント

以下の場合には、本システムが正常に動作しないことがあります。
- タイヤチェーンを装着している場合
- 近くに同じような無線周波数を使う施設や装置がある場合
- 車内で同じような無線周波数を使う電子機器を使用している場合
- ホイール、ホイールハウスの周りに多くの雪や氷が付着した場合
- 電波に障害を与えるようなフィルムをガラスに貼っている場合
- センサー送信機の電池が消耗した場合
- 受信機が適切な場所に設置されていない場合
- パンク修理剤を使用した場合

1-4 スマートフォンアプリ「TPMS」のインストール

・以下の URL または QR コードからアプリをインストールしてください。

https://www.tpms.jp/tpms-b-x1/

メモ

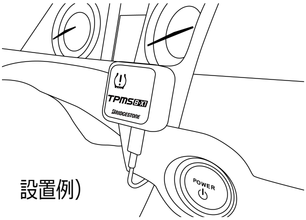
- アプリは無料でダウンロードできます。ただし、通信費用はお客様のご負担となります。
- 常に最新バージョンのアプリをダウンロードしてご利用ください。
- スマートフォンアプリ「TPMS」や「Google Play」「App Store」の名称は変更の可能性があります。
- 当アプリは Bluetooth と通知機能を使用しています。ご利用の際は、初回起動時に表示されるメッセージに従い、必要な許可をすべて承認してください。

1-5 受信機の取り付け作業と電源受給

(1) 受信機取り付け場所の設定

・受信機は、運転中に LED ランプが見やすい場所に設置してください。

⚠ 危険	・受信機は、運転中の視界を妨げず、見やすい場所に設置してください。 ・エアバッグの作動を妨げる場所や、直射日光の当たる場所には設置しないでください。



設置例)

(2) 取り付け面の清掃

・受信機の取り付け面と車両の取り付け面をクリーナーなどで清掃し、汚れや油脂等を除去してください。

(3) 受信機裏面への両面テープの貼り付け

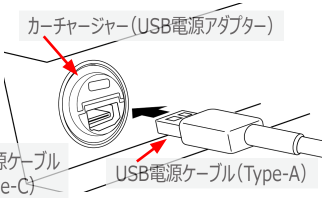
・受信機裏面の凹部分に、同梱されている両面テープを貼り付けます。

(4) USB 電源ケーブルの接続

・USB 電源ケーブルの Type-C 側を受信機下側にある USB コネクタに接続します。

・USB 電源ケーブルの Type-A 側をシガーソケット(アクセサリー電源)に装着したカーチャージャー(USB 電源アダプター)や車載標準の USB ポートに接続します。

受信機側(Type-C)



車両側(Type-A)

・車両側の USB Type-C コネクタから電源を取る場合は、USB ケーブルは Type C-C(非同梱)を使用してください。

(5) 受信機の設置

・受信機を両面テープで車両に取り付けます。

(6) USB 電源ケーブルの配線

・USB 電源ケーブルは配線の取し回し方を決め、配線留め(非同梱)を使用して固定します。

⚠ 危険	・USB 電源ケーブルは無理に曲げたり、傷つけないでください。

ポイント	・USB 電源ケーブルは根元まで確実に差し込んでください。 ・USB 電源ケーブルの配線留め(非同梱)は、受信機の LED ランプの視認性を確保し、電源ケーブルが脱落しないように取り付けてください。 ・カーチャージャー(USB 電源アダプター)または車載標準の USB ポートは、それぞれの取扱説明書を確認のうえ、ご使用ください。

1-6 使用時の受信機表示機能

(1) 受信機 LED ランプ表示内容

システム作動状態	受信機 LED ランプ表示	システム・空気圧状態
1. 受信機電源 ON	LED ランプ 9 色が順番に点灯	受信機が電源受給時の初期状態です。
2. センサー送信機データの受信待ち状態 ※前回電源 OFF 前に低空気圧警告していた場合は、低空気圧警告が表示されます。	緑色点滅　青色点滅	受信機電源受給後、センサー送信機からのデータ受信待ちの状態です。 (青色点滅は、スマートフォン接続中を示します)
3-1. タイヤ空気圧表示 (正常時)	緑色点灯　青色点灯	車両を時速 40km で走行し、センサー送信機 4 個からのデータを受信すると、受信機 LED ランプは「緑色点灯」または「青色点灯」になります。(青色点灯はスマートフォン接続中を示します) なお、停車中でも「緑色点灯」または「青色点灯」になる場合があります。
3-2. タイヤ空気圧表示 (-15% 減圧時)	黄色点灯	センサー送信機からのデータ受信し、タイヤ空気圧が指定空気圧から、15% 以上減圧した状態です。
3-3. タイヤ空気圧表示 (-30% 減圧時)	赤色点灯	センサー送信機からのデータ受信し、タイヤ空気圧が指定空気圧から、30% 以上減圧した状態です。
3-4. タイヤ空気圧表示 (150kPa 以下)	赤色点滅	センサー送信機からのデータ受信し、タイヤ空気圧が 150kPa 以下の状態

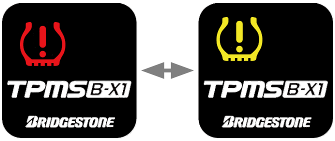
(2) タイヤ空気圧減圧時の処置

空気圧減圧状態	受信機 LED ランプ表示	処置
-15% 減圧時	 黄色点灯	販売店等でタイヤ点検と空気圧の補充をお願いします。
-30% 減圧時	 赤色点灯	速やかに販売店等でタイヤ点検と空気圧の補充をお願いします。
150kPa 以下	 赤色点滅	速やかに安全な場所に停車し、タイヤの状態を確認してください。

ポイント **使用中の注意事項**

- 低空気圧の表示は、4 輪の中で最も空気圧が低いタイヤの空気圧状態を表示します。
- 正確な空気圧の確認と調整は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- タイヤ内の空気圧は外気温により変動します。冬季など、急激に外気温度が下がった際には、低空気圧表示がされることがあります。
- 低空気圧表示中に走行すると、タイヤ内の温度が上昇し、空気圧も上昇するため、低空気圧表示が消えることがあります。
- 一部の車では、イグニッションキー（エンジンキー）を OFF にしてもアクセサリー電源に電力が供給され続けることがあります。システムが通電状態で放置されると、車のバッテリーが上がる恐れがあります。駐車時には必ずアクセサリー電源から USB 電源ケーブルを外してください。
- 違法なアマチュア無線や他の電子機器の影響により、一時的にデータ受信ができず、正常に受信機 LED ランプが表示されない場合があります。

(3) 故障モード表示

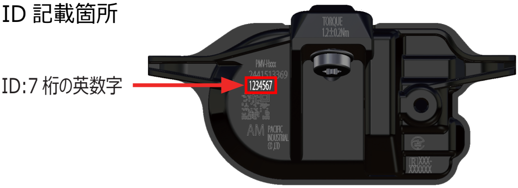
受信機 LED ランプ表示	システム状態	処置
  黄色点滅	データ未受信（走行時） ・車両走行中に、受信機がセンサー送信機からの 4 輪分のデータを受信した後、10 分以上データを受信できない場合	19 ページの「1-9 受信機が正常に動作しない場合は」参照
 赤色点灯 ⇔ 黄色点灯 交互に点灯	システム異常 ①タイヤの空気圧測定範囲 (380kPa) を超えた場合 ②受信機の故障、またはセンサー送信機が故障が発生している場合 ③センサー送信機の電池寿命が近い場合	

1-7 受信機へのセンサー送信機 ID の再登録作業が必要な場合

下記の作業を実施する際には、受信機の再登録作業が必要となりますので、ブリヂストン推奨の TPMS 取扱店にご相談ください。

対象作業内容	再登録作業が必要となる理由
タイヤローテーションを行う	センサー送信機 ID の登録位置が変更になるため
センサー送信機を交換する	センサー送信機 ID が変更になるため
別のセンサー送信機付きタイヤセットに交換する	センサー送信機 ID が変更になるため
受信機を交換する	センサー送信機 ID と指定空気圧の再登録が必要となるため
別の車両に本システムを移設する	センサー送信機 ID と指定空気圧の再登録が必要となるため

センサー送信機 ID 記載箇所



メモ	・車両に装着されている、センサー送信機 ID 番号は、スマートフォンアプリ「TPMS」やトリガーツール（デジタルゲージ）で確認することができます。

1-8 スマートフォンアプリ「TPMS」を使用したタイヤ空気圧・温度表示機能

(1) スマートフォンアプリ「TPMS」のインストール

・下記の URL または、QR コードからスマートフォンアプリ「TPMS」をインストールし、受信機とスマートフォンを Bluetooth 接続することで、タイヤ空気圧と温度をスマートフォンで表示することができます。

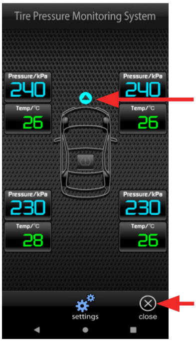
https://www.tpms.jp/tpms-b-x1/

スマートフォン接続時は、
青色点灯
(タイヤ空気圧正常時)

メモ	・スマートフォンアプリ「TPMS」は、アプリを起動すると、最初に検知した受信機と Bluetooth 接続を行います。 ・Bluetooth 接続が成立するまでに数秒かかります。 ・スマートフォンが低消費電力状態（画面がオフの状態など）になると、Bluetooth 接続が一時的に途切れることがあります。このような場合は、スマートフォンのアプリを再度表示し、Bluetooth 接続が回復するかどうかをご確認ください。これはスマートフォンの省電力機能によるものであり、機器やアプリの不具合ではありません。

(2) メイン画面表示

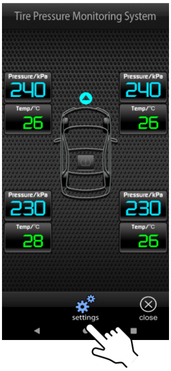
・スマートフォンアプリ「TPMS」を起動し、スマートフォンと受信機の Bluetooth 接続が成立すると、各輪のタイヤ空気圧と温度が表示されます。



受信機と接続時は水色

アプリ終了ボタン

(3) スマートフォンアプリ「TPMS」の基本設定機能



項目	用途
指定空気圧設定	指定空気圧を変更する時に使用します。 （販売店のみ使用）
送信機登録	センサー送信機を変更する時に使用します。 （販売店のみ使用）
受信機設定	受信機 LED ランプの緑色または青色の明るさを調整します。その他の色は調整できません。
アプリケーション設定	アプリケーションの基本設定を行います。

⚠ 警告	誤った指定空気圧の設定を行うと正しくタイヤ空気圧減圧表示ができません。

(4) アプリケーション設定

・アプリケーション設定では、 下記の設定を行うことができます。

項目	用途
通知（アラート機能）	異常（圧力異常、送信機異常、システム異常）の通知を設定します。
バックグラウンド動作	バックグランウンドでアプリを動作させるかを設定します。 スマートフォンの種類によっては、この機能は動作しない場合があります。
単位	メイン画面に表示される圧力単位、圧力値の最小目量、温度単位の設定をします。
言語	日本語表示、英語表示を選択します。

1-9 受信機が正常に動作しない場合は

本システムの受信機が正常に動作しない場合は、以下の点をご確認ください。
問題が解決しない場合や故障と思われる場合は、速やかにブリヂストン推奨の TPMS 取扱店にご相談ください。

症状	受信機 LED ランプ表示	対処方法
イグニッションキー (エンジンキー) を ON にしても、受信機 LED ランプが点灯しない。	 消灯	・カーチャージャー（USB 電源アダプター）をご使用の場合、シガーソケット（アクセサリー電源）に正しく挿入されているかご確認ください。 ・USB 電源ケーブルの Type-A 側または Type-C 側が正しく挿入されているかご確認ください。 ・シガーソケット（アクセサリー電源）に損傷や接触不良がないかご確認ください。 ・車両に装着されたカーチャージャー（USB 電源アダプター）または USB 変換アダプタが故障している可能性があります。販売店にご相談ください。 ・シガーソケット（アクセサリー電源）のヒューズが切れている可能性があります。車両販売店にご相談ください。 ・車両標準の USB ポートに接続している場合、適切な使用方法を確認してください。必要に応じて、ノイズの発生しない高品質なカーチャージャー（USB 電源アダプター）を使用してください。
車両を走行させても、センサー送信機データの受信待ち状態が継続する。	 緑色点滅　青色点滅	・法廷速度を守り、40km/h 以上で走行してください。 ・センサー送信機の ID が受信機に正しく登録されていない可能性があります。販売店にご相談ください ・車両アクセサリー電源の接触不良の可能性がありますので、USB 電源ケーブルの接触状態をご確認ください。 ・近くに妨害電波を発生する装置や設備がある可能性があります。車の場所を移動してご確認ください。 ・受信機が電波を受信していない可能性があります。受信機の取り付け位置の変更を行ってください。
車両走行後すぐに、タイヤ空気圧減圧表示する。	 赤色点灯　黄色点灯	・タイヤ空気圧が減少している可能性があります。タイヤの点検を行い、空気圧の補充を行ってください。 ・指定空気圧が正しく設定されていない可能性があります。販売店にご相談ください。
空気圧調整を行った後に、タイヤ空気圧減圧表示する。	 赤色点灯　黄色点灯	・空気圧調整に使用したエアゲージが精度不良の可能性があります。校正されたエアゲージを使用して再度空気圧調整を行ってください。（ブリヂストン推奨の TPMS 取扱店で空気圧調整を行うことを推奨します）

症状	受信機 LED ランプ表示	対処方法
正しく空気圧調整を行っても、タイヤ空気圧減圧表示をする。	赤色点灯　黄色点灯	・受信機の指定空気圧設定が正しくされていない可能性があります。販売店にご相談ください。
長時間駐車した後に走行を開始し、すぐに「黄色点灯」の減圧表示がされたが、その後、走行を続けると「緑色点灯／青色点灯」の正常表示に変わった。	黄色点灯 → 緑色点灯	・タイヤが冷間状態のときは空気圧が低めですが、車両走行によってタイヤが発熱すると、空気圧が上昇し正常値になります。 ・タイヤ冷間状態で空気圧調整を行ってください。
「黄色点灯 / 赤色点灯」の減圧表示をしたため、空気充てんを行ったが、再度減圧表示が点灯する。	赤色点灯　黄色点灯	・タイヤに釘刺さりなどのパンク発生要因があります。早急に販売店でタイヤの状態を点検してください。
使用中に「黄色点滅」表示をする。	黄色点滅	・長時間の駐停車時や渋滞中は「黄色点滅」になることがあります。車両を走行させて、センサー送信機のデータ受信ができるか確認してください。（正常時：「緑色点灯」または「青色点灯」） ・車両を走行させても「黄色点滅」が継続する場合、センサー送信機の異常の可能性がありますので、販売店にご相談ください。
「赤色点灯」と「黄色点灯」が交互に点灯する。(システム異常の表示)	赤色点灯 ⇔ 黄色点灯 交互に点灯	・走行によってタイヤ内温度が上昇し、タイヤの空気圧測定範囲（380kPa）を超えた可能性があります。設定可能な指定空気圧値を超えているため、使用不可です。 ・受信機の故障、センサー送信機の異常、またはセンサー送信機の電池寿命が近づいてきた可能性がありますので、販売店にご相談ください。
車両走行中に、瞬間的にタイヤ空気圧減圧表示をする。	瞬間的に表示 赤色点灯　黄色点灯	・妨害電波、違法なアマチュア無線、他の電子機器などの影響により、一時的にセンサー送信機のデータ受信ができず、正常に受信機 LED ランプが表示がされない場合があります。ただし、すぐに正常な表示に復帰した場合は、製品性能に問題はありません。

1-10 デジタルゲージ PMT-T62 の使用方法 (オプション品)

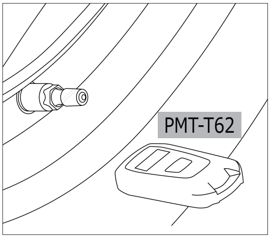
・デジタルゲージは、センサー送信機へ電波信号を発信することで、タイヤ空気圧、温度、センサー送信機 ID を表示することができます。
・使用用途は、以下のとおりです。

①車両運行前のタイヤ空気圧の点検
②センサー送信機を交換した際などのセンサー送信機 ID 再登録作業

PMT-T62

(1) 操作方法

・センサー送信機が装着されているタイヤ側面部にデジタルゲージを当て、デジタルゲージのトリガー送信ボタンを 1 秒以上押します。



(2) 表示機能

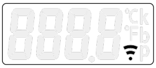
・センサー送信機データをデジタルゲージが受信すると表示ディスプレイに以下が表示されます。

①タイヤ内空気圧
②タイヤ内温度
③センサー送信機 ID

・デジタルゲージを使用したセンサー送信機 ID 再登録作業は、第 2 章 (52 ページまたは 55 ページ) を参照してください。

・デジタルゲージの製品仕様、使用方法についてはデジタルゲージの取扱説明書を参照してください。

デジタルゲージ PMT-T62 表示例


トリガー送信中

タイヤ内空気圧

タイヤ内温度

センサー送信機 ID 表示

センサー送信機 ID
上 3 桁

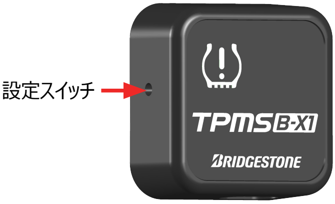
センサー送信機 ID
下 4 桁

1-11 その他の注意事項

(1) 受信機の設定スイッチについて

・受信機の左側面に装着されている「設定スイッチ」は、取り付け販売店が各種設定を行うためのものです。

・お客様がこのスイッチを操作されますと、正しくタイヤ空気圧の低空気圧警告ができないなど、システムの誤作動や故障の原因になりますので、**絶対に操作しないでください**。万一、スイッチを操作してしまった場合は、ブリヂストン推奨の TPMS 取扱店にご相談ください。



(2) スマートフォンアプリ「TPMS」の設定機能

・スマートフォンアプリの「指定空気圧設定」および「送信機登録」ボタンは、販売店がセッティング作業に使用しますので、操作しないでください。これを操作すると、正しくタイヤ空気圧の低空気圧警告ができない、タイヤ空気圧表示ができないなどの誤作動の原因となります。

(3) ランフラットタイヤの警報装置として使用する場合

・ランフラットタイヤ取扱説明書の記載事項を遵守してください。

・ランフラットタイヤ及び TPMS の装着・メンテナンス等は、高度な技術と特別な設備が必要となるため、ブリヂストン推奨のランフラットタイヤおよび TPMS 取扱店のみで実施してください。

(4) タイヤチェーンを装着している場合

・センサー送信機の電波が弱くなり、本システムが正常に機能しないことがありますので、ご注意ください。

(5) その他

・TPMS が正常に作動するか、定期的にブリヂストン推奨の TPMS 取扱店で確認してください。

第2章

取付け作業書
販売店様向け

⚠ お取付けの際にお読みください。

TPMS B-X1

お取り付けの際にお読みください（販売店様向け）

危険

・センサー送信機の取り付けは、必ずブリヂストン推奨 TPMS 取扱店へご相談ください。間違った取り付けは、タイヤの空気漏れ等を引き起こし、事故や損傷につながる危険があります。

・バルブキャップは必ず付属品を使用してください。金属製などのバルブキャップを使用すると、センサー送信機の金属部に腐食が生じ、エア漏れなどの重大な不具合が発生する恐れがありますので、金属製のキャップは**絶対に使用しないでください**。

・受信機は運転時の視界を妨げる場所に設置しないでください。また、エアバッグなどの安全装置に影響のない位置に設置してください。

警告

・受信機の電源は、必ず付属の USB 電源ケーブルを使用し、車内のアクセサリー電源から取ってください。

・ホイール形状によっては、センサー送信機が取り付けられないことがあります。取り付け時にセンサー送信機のホイール適合をご確認ください。

・Type S（スナップインバルブタイプ）センサー送信機のキャップやバルブコアは必ず付属のものを使用し、タイヤ交換の際にはバルブ本体を必ず新品に交換してください。

・Type C（クランプインバルブタイプ）センサー送信機のキャップ、ナット、ワッシャ、グロメット、バルブコアは必ず付属のものを使用し、タイヤ交換時には新品に交換してください。

注意

・本システムはチューブレスタイヤ専用です。チューブタイプのタイヤには使用できません。

・本システムは、指定空気圧が 350kPa 以下の車両に使用できます。

・Type S（スナップインバルブタイプ）センサー送信機のゴムバルブに付いている赤色 O リングは、センサー送信機の取り付けを示す目印ですので、**絶対に取り外さないでください**。

2-1 取り付け部品詳細

(1) センサー送信機

・走行輪の各タイヤ（スペアタイヤを除く）に、タイヤバルブの代わりにセンサー送信機を取り付けます。

・センサー送信機は、タイヤ内の空気圧を測定し、無線で受信機へデータを送信します。

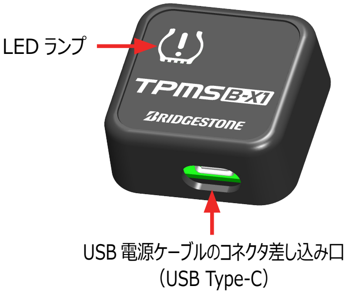
センサー送信機本体
Type S
(スナップインバルブタイプ)

センサー送信機本体
Type C
(クランプインバルブタイプ)

(2) 受信機

・内蔵された受信アンテナで、センサー送信機からのタイヤ空気圧データを受信し、運転者に受信機 LED ランプで圧力状態を知らせます。

・受信機は、付属の USB 電源ケーブルを使用し、カーチャージャー（USB 電源アダプター）または車載標準の USB ポートと、受信機下面にあるコネクタを接続します。



注意	製品を開封する際は、同梱されている部品がすべて揃っているか必ずご確認ください。 梱包品の一覧は、10 ページ または 11 ページ の「システム構成部品」をご参照ください。

(3) トリガーツール（デジタルゲージ）

・受信機へのセンサー送信機 ID 登録作業およびセンサー送信機の故障診断用として使用します。

①デジタルゲージ PMT-T62 (オプション品)

②トリガーツール VT41-BS（販売店様用）

2-2 センサー送信機のホイールへの取り付け作業

(1) センサー送信機のホイール適合性の確認

	Type S (スナップインバルブタイプ)	Type C (クランプインバルブタイプ)
適合バルブ孔径	Φ 11.5mm (スナップインバルブ :TR412,TR413 相当)	
バルブ形状	ストレートバルブ	
ホイール種類	スチール / アルミホイール	アルミホイール限定

・装着可能なホイールのバルブ孔径は、Φ 11.5mm です（スナップインバルブ : TR412、TR413 相当)。

・バルブ形状はストレートバルブを採用したホイールに限定されます。L 型など、バルブステムに角度が付いたバルブを採用しているホイールには装着できません。

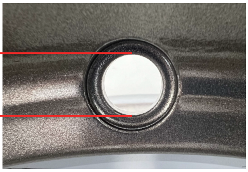
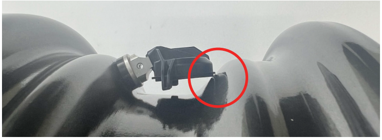
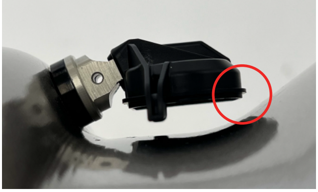
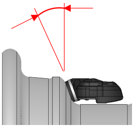
・Type S（スナップインバルブタイプ）のセンサー送信機は、アルミホイールまたはスチールホイールに装着可能です。

・Type S（スナップインバルブタイプ）のセンサー送信機は、ISO 5° DC タイプのホイールフランジ記号 B、J、及び JJ に適合します。※詳細は、(一社) 日本自動車タイヤ協会発行の日本自動車タイヤ協会規格を参照ください。

・Type C（クランプインバルブタイプ）のセンサー送信機は、アルミホイール限定です（スチールホイール装着不可)。

・詳細は、次ページの表を参照し、装着可否の判定を行ってください。

(2) ホイールへの装着判定 Type S（スナップインバルブタイプ）／Type C（クランプインバルブタイプ）

項目	写真	仕様	注意事項
適合ホイール種	Type S（スナップインバルブタイプ）：スチールホイール・アルミホイール共に装着可 Type C（クランプインバルブタイプ）：アルミホイールのみ装着可（スチールホイールは装着不可）		
バルブ孔座径	φ 15 mm 以上	φ 15 mm 以上	バルブ孔座径が小さいと、エアシールができず、ホイールのバルブ孔座からエア漏れが発生する可能性があります。
バルブ孔径	φ 11.5 mm 	φ 11.5 mm	規定寸法以外のバルブ孔径は、エアシールができず、エア漏れが発生する可能性があります。
リム幅		4.0 インチ以上	リム幅が狭いと、センサー送信機の特定部分（写真○で示した部分）がリムに当たり、装着できません。
ウェル角度		15 ～ 30° ウェル角度 	ウェル角度が小さいと、ホイールに装着したときに、センサー送信機の特定部分（写真○で示した部分）がリムに接触し、損傷する可能性があります。
	2 mm 以下		ウェル角度が大きいホイールでは、センサー送信機がホイールのリム径より突出し、タイヤリム組み／リム解き時に損傷する可能性があります。ハンプからの飛び出しは 2 mm以下であることを確認してください。

・一部の輸入車（欧州車など）の純正装着ホイールには、バルブ孔座がテーパー形状となっているものがあります。その際には、必ず Type S（スナップインバルブタイプ）を装着してください。

・ホイールを装着する際には、必ずセンサー送信機とホイールが正しく装着可能であることを確認してください。

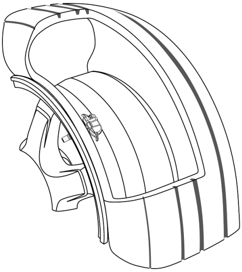
(3) センサー送信機のホイール取り付け後の確認事項

・センサー送信機がホイールのウェル底に対し、ほぼ平行な状態であることを確認してください。

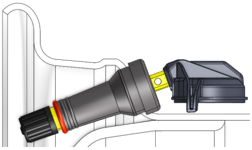
・ハンプからセンサー送信機がホイールのウェル底、および反対側のウェル壁に接触していないことを確認してください。

・Type S（スナップインバルブタイプ）のセンサー送信機の取り付け時は、バルブインジケータリングが全周にわたって外側から見える位置までバルブをしっかりと引き出し、バルブがホイールディスク部に接触していないことを確認してください。

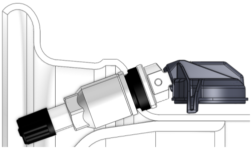
・Type C（クランプインバルブタイプ）のセンサー送信機の取り付け時は、バルブステム、およびナット締付時にソケットがホイールに干渉していないことを確認してください。



ホイールへの取り付け例

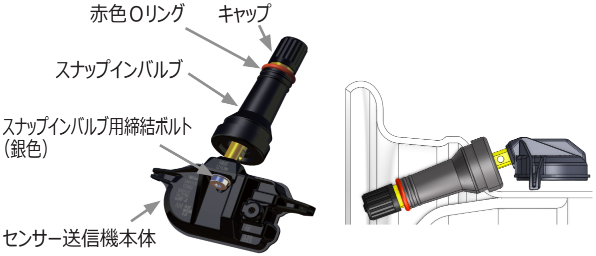


Type S（スナップインバルブタイプ）



Type C（クランプインバルブタイプ）

2-3 Type S（スナップインバルブタイプ）センサー送信機のホイールへの取り付け作業



Type S(スナップインバルブタイプ)

(1) 準備

必要工具

品名	用途
バルブインサーター	センサー送信機をバルブ孔に取り付け可能なもの
石けん水、ビードクリーム	装着時にゴムバルブに塗布
スペーサー (板厚が異なるゴム板等)	センサー送信機を真っ直ぐに引き上げるのに使用
トルクドライバー	センサー送信機本体部とバルブの締結ボルトの締め付け用 トルク値 1.2 ± 0.2Nm の作業ができるもの
トルクスビット T10	センサー送信機本体部とバルブの締結ボルトの締め付け用

(2) センサー送信機のホイールへの取り付け

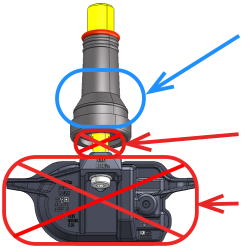
①ホイールバルブ孔部の清掃

・ホイールのバルブ孔周辺の異物、汚れ、油脂等をきれいに拭き取ってください。
(バルブ孔部に錆が発生しているホイールは、エア漏れの可能性があるためセンサー送信機の取り付けは行わないでください)

危険	バルブ孔周辺の清掃が不十分な場合、エア漏れの危険性があります。

②潤滑剤塗布

・バルブキャップを取り外し、潤滑剤（ビードクリームなど）をホイールと接触する部分のゴムバルブ全周に塗布してください。



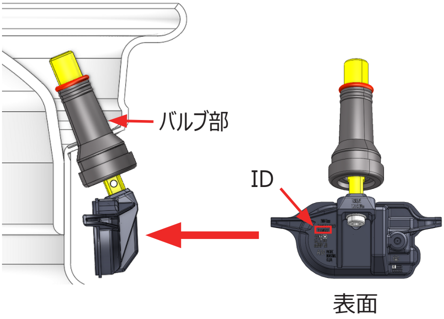
ホイールとの接触部に石けん水やビードクリームなどを塗布してください。

バルブステムには、石けん水やビードクリームなどを塗布しないでください。

センサー送信機本体には、石けん水やビードクリームなどを塗布しないでください。

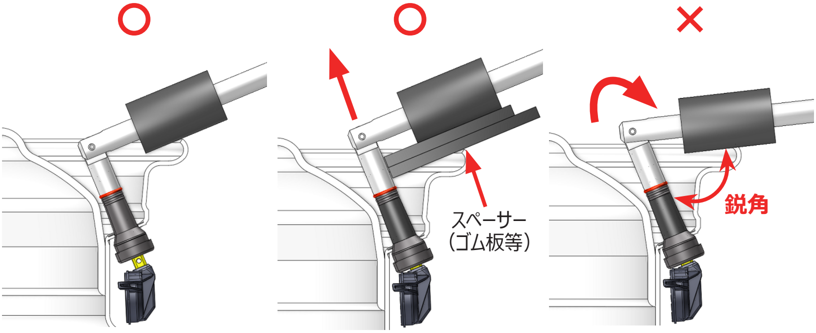
③バルブ孔へ挿入

・センサー送信機は表面（ID の記載面が見える向き）を上にしてバルブ部をホイールのバルブ孔に挿入してください。



④センサー送信機のホイールへの装着

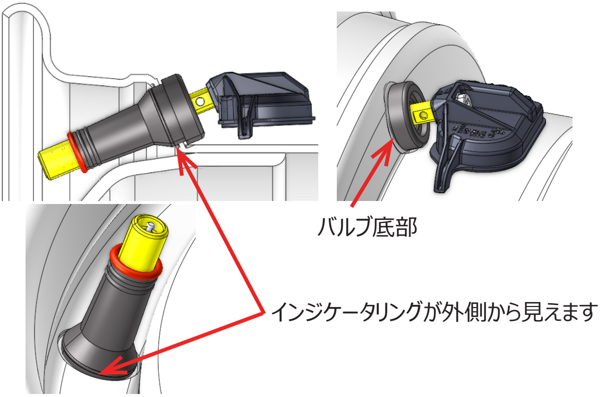
・バルブインサーターをバルブのネジ部に取り付けてください。
・バルブインサーターをホイールの縁部に当て、バルブを真っ直ぐに引き出し、センサー送信機をホイールに取り付けしてください。



ポイント	・取り付けの際、ホイールサイズによりバルブが斜めに引き上がる場合は、必要に応じてスペーサー（ゴム板など）をホイール端部に挟み込み、ゴムバルブを真っ直ぐに引き上げてください。 ・バルブを斜めに引き上げると、正しく装着できず、エア漏れの原因となります。 また、バルブのネジ部が変形するなど損傷の要因となりますので、十分に注意して取り付け作業を行ってください。 ・バルブを引き抜く際には、センサー送信機がホイールのウェル底に対して平行になるよう、取り付け位置を確認し調整してください。

⑤バルブ取り付け位置の確認

・バルブのインジケータリングが全周にわたって外側から見えるかを確認してください。
・バルブ底部がホイール内面に正しく装着されていることも確認してください。



(3) 警告ラベルの貼り付け

①スチールホイール用警告ラベル

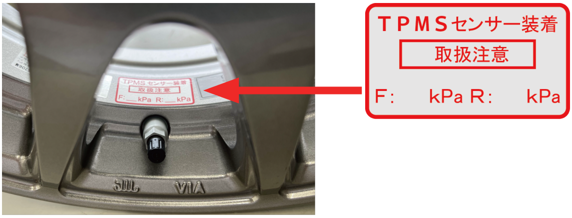
・スチールホイール用警告ラベル（同梱）は、ホイール外側のバルブ周辺に貼り付けてください。
・警告ラベルを貼り付ける際は、ホイール面の汚れや油脂類を除去してください。

貼り付け例 1

貼り付け例 2

② TPMS センサー装着警告ラベル

・TPMS センサー装着警告ラベル（同梱）は、ホイール内側のバルブ周辺に貼り付けてください。
・警告ラベルを貼り付ける際は、ホイール面の汚れや油脂類を除去してください。



警告	警告ラベルは、タイヤ交換時におけるセンサー送信機の損傷防止のため、必ず貼り付けてください。

③ TPMS センサー装着警告ラベルの運転席付近への貼り付け

・TPMS センサー装着警告ラベル (同梱) には、車両の指定空気圧を記入し、運転席の横等にある「車両メーカー指定空気圧表示部」の近くに貼り付けてください。
・警告ラベルを貼り付ける際は、必ず貼り付ける面の汚れや油脂類をしっかり除去した後に実施してください。

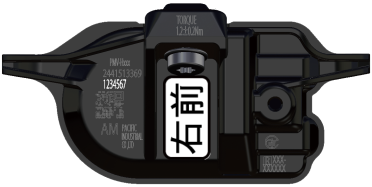
記入例)
フロント 220kPa
リア 240kPaの場合

TPMSセンサー装着
取扱注意
F : 220 kPa R : 240 kPa

(4) リム組み作業

・タイヤチェンジャーを使用し、センサー送信機を損傷させないようにリム組みを行います。

ポイント	・新品時、受信機に各装着位置のセンサー送信機 ID が登録されていますので、リム組前にセンサー送信機の装着位置をマーキングしてください。 ・新品のセンサー送信機には、中央部に輪位置（「左前」、「右前」、「右後」、「左後」）が表示されています。この表示に従って、必ず適切な位置に装着してください。 ・本システムは、あらかじめ設定された前輪および後輪の指定空気圧を受信機に基づいて、走行中に測定されるタイヤ空気圧と比較し、低空気圧警告を発する仕組みです。装着位置を誤ると、タイヤ空気圧の測定結果を正確に受信機 LED ランプが表示できない可能性がありますので、注意してください。



例) 右前用

⚠ 警告	タイヤレバーやタイヤビードがセンサー送信機に接触しないように注意して作業してください。

(5) 空気充てん

・空気充てん時、ビードシーティング圧は 300kPa 以下とし、安全囲いに入れて実施してください。
・リム組みしたタイヤに、指定空気圧より多めに (約＋ 20kPa) 空気を充填します。

(6) エア漏れ確認

・空気充てん後、石鹸水などを用いて、バルブ、バルブコア、バルブ周辺、およびタイヤビード部等からのエア漏れが無いことを確認します。

(7) 車両への取り付け

・ホイールバランサーでバランス調整を行った後に車両に取り付けます。

・新品のセンサー送信機は、各輪の位置ごとに受信機に ID が登録済です。

・新品のセンサー送信機には、中央部に輪位置が表示されています（｢左前｣､｢右前｣､｢右後｣､｢左後｣）。必ずこの表示に従って、適切な位置に装着してください。

ポイント	ローテーション作業時などで輪位置を変更した場合は、センサー送信機の ID を再登録する作業が必要となります。

(8) タイヤ空気圧の調整

・トリガーツール（デジタルゲージ）または校正されたエアゲージを使用して、車両指定空気圧に調整します。

・指定空気圧の登録を正しく行わないと、空気圧測定の結果が正確に受信機 LED ランプが表示されない場合があります。

⚠ 危険	タイヤの空気圧を調整した後は、必ず同梱のバルブキャップを装着してください。 金属製のバルブキャップは、**絶対に使用しないでください**。

ポイント	タイヤ空気圧の低空気圧警告は、センサー送信機から送信されたデータで作動しますのでトリガーツール（デジタルゲージ）またはスマートフォンアプリ「TPMS」表示でタイヤ空気圧値が指定空気圧に調整されたか確認してください。

2-4 Type S（スナップインバルブタイプ）センサー送信機のホイールへの取り外し作業

(1) タイヤの空気を抜く

・バルブコアを取り外し、タイヤの空気を抜き 0kPa にします。

(2) リム解き

・タイヤをセンサー送信機にビード部が接触しない様にリム解きをします。

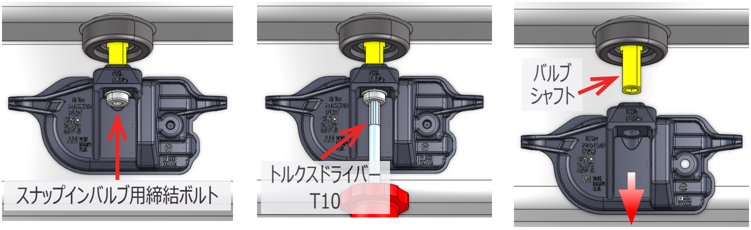
・Type S（スナップインバルブタイプ）のセンサー送信機は、タイヤをリム解きした後にセンサー送信機を取り外します。

ポイント	センサー送信機が装着されていることを識別するため、バルブには赤色の O リングが取り付けられています。

(3) センサー送信機本体部の取り外し

①センサー送信機本体の締結ボルトの取り外し

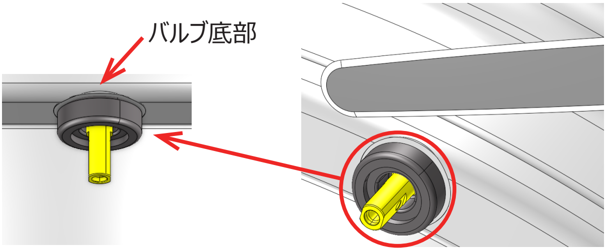
・センサー送信機のスナップインバルブ用締結ボルトを、トルクスドライバー T10 を使用して取り外し、センサー送信機本体をバルブシャフトから引き抜きます。



②バルブの取り外し

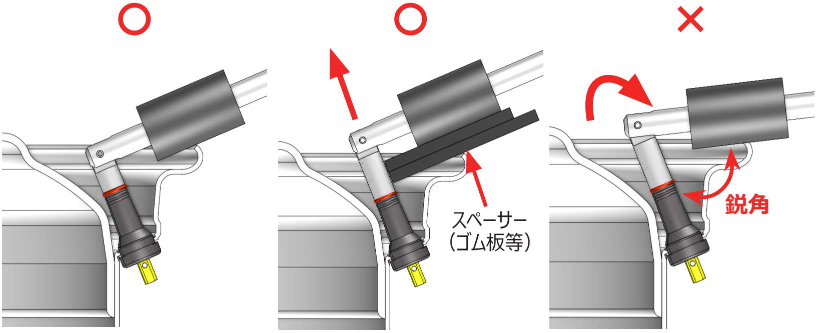
・ナイフなどを用いて、バルブ底部に可能な限り全周に切り込みを入れてください。

・特に、アルミホイールの取り外し作業では、バルブ引出し時にバルブシャフトがホイール孔に接触し、傷を発生させる可能性がありますので注意してください。



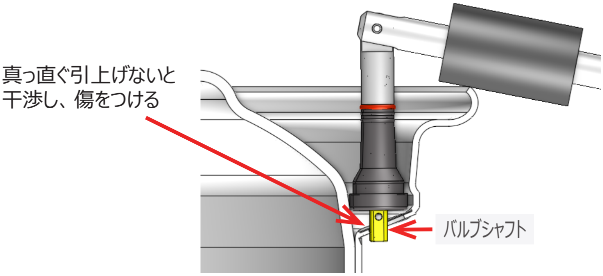
・バルブインサーターを取り付けて、バルブを取り外します。

・この時、バルブを引き上げる際に斜めにならないよう、必ずスペーサー（ゴム板等）を使用して真っ直ぐ引き上げてください。



・斜めに引上げると、バルブシャフトがホイール孔に接触してホイールに傷をつける恐れがありますので、注意して取り外しを行ってください。

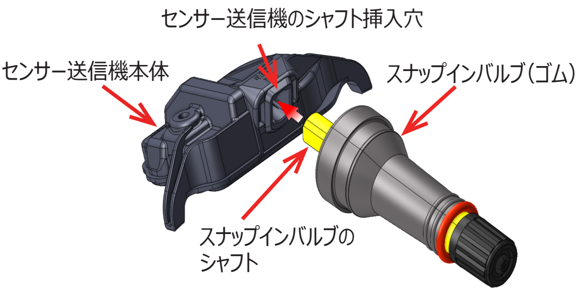
・ゴムバルブを取り外す際には、バルブシャフトの長さ分真っ直ぐ引出す必要がありますので、スペーサー（ゴム板等）を増やして取り外してください。



2-5 Type S（スナップインバルブタイプ）センサー送信機の再取り付け作業

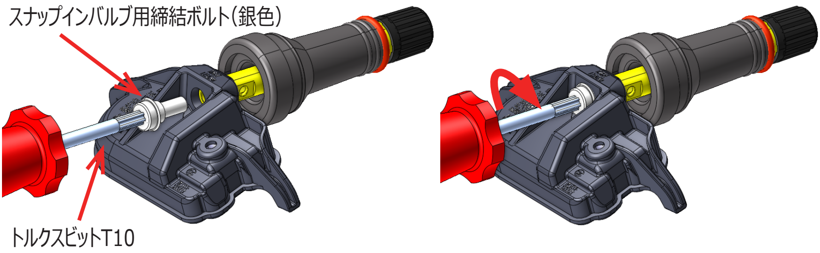
必要工具	品名：トルクスドライバーとトルクスビット T10 用途：スナップインバルブとセンサー送信機本体の締付作業に使用します。 トルク値 1.2 ± 0.2 Nm 作業ができるトルクスドライバーをご使用ください。

- タイヤ交換時には、**必ず新品のスナップインバルブ（ゴム）とスナップインバルブ用締結ボルトに交換**してください。
- スナップインバルブ（ゴム）のみをホイールへ先に取り付けると、センサー送信機本体が正しい向きに取り付けできなくなる場合があります。**必ずセンサー送信機を組み立ててからホイールに取り付け**をしてください。
- センサー送信機本体のシャフト挿入穴とスナップインバルブ（ゴム）のシャフトの形状を合わせ、真っ直ぐに差し込んでください。



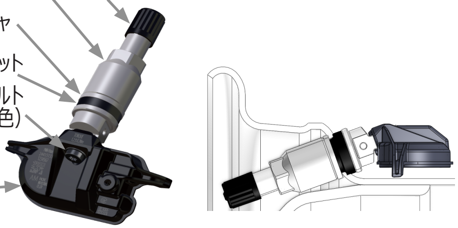
- スナップインバルブ用締結ボルトを取り付け、トルクスドライバーとトルクスビット T10 を使用して、規定のトルク 1.2 ± 0.2 Nm で締め付けてください。

⚠ 警告	ボルトは必ず付属のスナップインバルブ用締結ボルト (銀色) を使用してください。クランプインバルブ用締結ボルトとは、材質が異なるため緩みや錆の発生原因となります。



- センサー送信機のホイールへの装着手順にしたがいセンサー送信機をホイール孔に取り付けます。

2-6 Type C（クランプインバルブタイプ）センサー送信機のホイールへの取り付け作業



Type C（クランプインバルブタイプ）

(1) 準備

必要工具

品名	用途
トルクレンチ	センサー送信機のバルブナット締付作業に使用します。 トルク値 4.0 ± 0.6Nm の作業ができるトルクレンチをご使用ください。
ソケット	センサー送信機のバルブナット締付作業に使用します。 ロングボックス：11mm

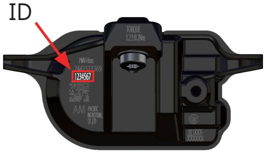
(2) センサー送信機のホイールへの取り付け

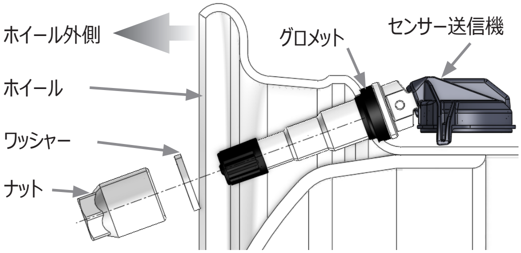
①ホイールバルブ孔部の清掃

・ホイールのバルブ孔周辺の異物、汚れ、油脂等をきれいに拭き取ってください。

警告	バルブ孔部に錆が発生しているホイールは、エア漏れの可能性があるため センサー送信機の取り付けは行わないでください。

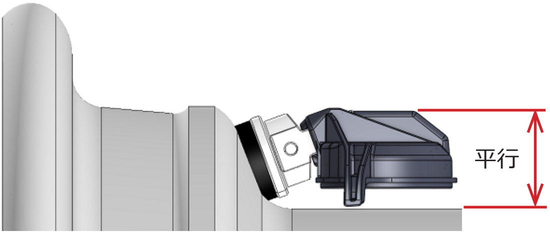
② センサー送信機のホイールバルブ孔への取り付け





・グロメットを装着した状態のセンサー送信機を、ホイール内側からバルブ孔に挿入します。
・センサー送信機は表面（ID の記載面が見える向き）を上にしてバルブ部をホイールのバルブ孔に挿入してください。
・センサー送信機のグロメット部には、ビードクリームなどを塗布しないでください。
・外側からワッシャー、ナットの順で装着します。
・仮締めを行ったあと、トルクレンチを使用してバルブナットを規定トルク（4.0 ± 0.6Nm）で締め付けてください。

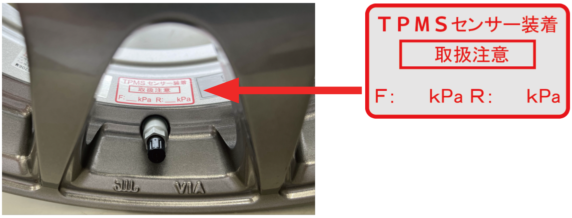
③ センサー送信機の位置確認
・センサー送信機は、ホイールに平行になるように取り付けを行ってください。



(3) TPMS センサー装着警告ラベルの貼り付け

① TPMS センサー装着警告ラベルのホイールへの貼り付け

・TPMS センサー装着警告ラベル（同梱）は、ホイール内側のバルブ周辺に貼り付けてください。
・警告ラベルを貼り付ける際は、必ずホイール面の汚れや油脂類をしっかり除去した後に実施してください。



警告	警告ラベルは、タイヤ交換時のセンサー送信機の損傷防止のために、必ず貼り付けてください。

② TPMS センサー装着警告ラベルの運転席付近への貼り付け

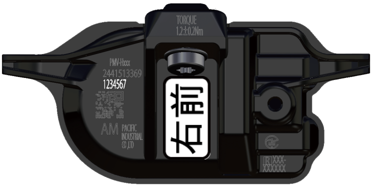
・TPMS センサー装着警告ラベル (同梱) には、車両の指定空気圧を記入し、運転席の横等にある「車両メーカー指定空気圧表示部」の近くに貼り付けてください。
・警告ラベルを貼り付ける際は、必ず貼り付ける面の汚れや油脂類をしっかり除去した後に実施してください。

記入例）
フロント 220 kPa
リア 240 kPa の場合

(4) リム組み

・タイヤチェンジャーを使用し、センサー送信機を損傷させないようにリム組みを行います。

ポイント	・新品時、受信機に各装着位置のセンサー送信機 ID が登録されていますので、リム組前にセンサー送信機の装着位置をマーキングしてください。 ・新品のセンサー送信機には、中央部に輪位置（「左前」、「右前」、「右後」、「左後」）が表示されています。この表示に従って、必ず適切な位置に装着してください。 ・本システムは、あらかじめ設定された前輪および後輪の指定空気圧を受信機に基づいて、走行中に測定されるタイヤ空気圧と比較し、低空気圧警告を発する仕組みです。装着位置を誤ると、タイヤ空気圧の測定結果を正確に受信機 LED ランプが表示できない可能性がありますので、注意してください。



例) 右前用

警告	タイヤレバーやタイヤビードがセンサー送信機に接触しないように注意して作業してください。

(5) 空気充てん

・空気充てんの際、ビードシーティング圧は 300kPa 以下とし、安全囲いに入れて実施してください。

・リム組みしたタイヤには、指定空気圧より多めに (約＋ 20kPa) 空気を充てんします。

(6) エア漏れ確認

・空気充てん後、石鹸水などを用いて、バルブ、バルブコア、バルブ周辺、およびタイヤビード部等からのエア漏れが無いことを確認します。

(7) 車両への取り付け

・ホイールバランサーでバランス調整を行った後に、車両に取り付けます。

・新品のセンサー送信機は、各輪の位置ごとに受信機に ID が登録済です。

・新品のセンサー送信機には、中央部に位置（「左前」、「右前」、「右後」、「左後」）が表示されています。必ずこの表示に従って、適切な位置に装着してください。

ポイント	ローテーション作業時などで輪位置を変更した場合は、センサー送信機の ID を再登録する作業が必要となります。

(8) タイヤ空気圧の調整

・トリガーツール（デジタルゲージ）または校正されたエアゲージを使用して、車両指定空気圧に調整します。

・指定空気圧の登録を正しく行わないと、空気圧測定の結果が正確に受信機 LED ランプが表示されない場合があります。

危険	タイヤの空気圧を調整した後は、必ず同梱のバルブキャップを装着してください。 金属製のバルブキャップは、**絶対に使用しないでください。**

ポイント	タイヤ空気圧の低内圧警告は、センサー送信機から送信されたデータで作動しますので、トリガーツール（デジタルゲージ）またはスマートフォンアプリ「TPMS」表示でタイヤ空気圧値が指定空気圧に調整されたか確認してください。

2-7 Type C（クランプインバルブタイプ）センサー送信機のホイールからの取り外し作業

(1) タイヤの空気を抜く

・バルブコアを取り外し、タイヤの空気を抜き 0kPa にします。

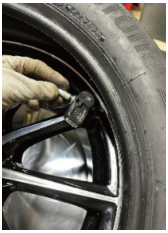
(2) センサー送信機の各部品の取り外し

・センサー送信機のナットを取り外し、バルブ部を押しセンサー送信機本体をタイヤ内部に落とし込みます。
・バルブ孔座にあるワッシャーを取り外します。

ポイント	リム解き作業時には、センサー送信機を破損防止のために、必ずセンサー送信機をタイヤ内に落としてからリム解き作業を行ってください。特にランフラットタイヤのリム解き作業時には注意が必要です。

(3) センサー送信機の取り出し

・上側ビードを取り外した後に、タイヤ内部に落とし込んだセンサー送信機を取り出します。



(4) タイヤのホイールからの取り外し

・下側ビードを取り外した後に、タイヤをホイールから取り外します。

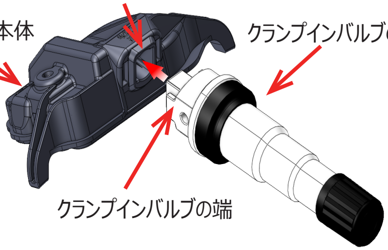
2-8 Type C（クランプインバルブタイプ）センサー送信機の再取り付け作業

・センサー送信機を再取り付けする際は、バルブステムを清掃し、異常がないか確認してください。
・補修部品（ナット、ワッシャー、グロメット、バルブコア、バルブキャップ）は必ず新品に交換してください。
・バルブステムに異常がある場合は、必ず新品のクランプインバルブに交換してください。

(1) センサー送信機本体とクランプインバルブの取り付け方法

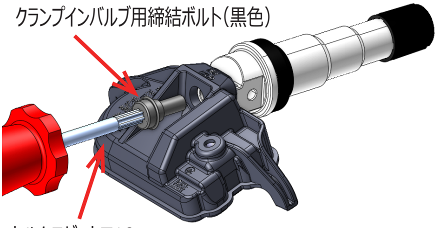
必要工具	品名：トルクスドライバーとトルクスビット T10 用途：クランプインバルブとセンサー送信機本体の締付作業に使用します。 トルク値 1.2 ± 0.2 Nm 作業ができるトルクスドライバーをご使用ください。

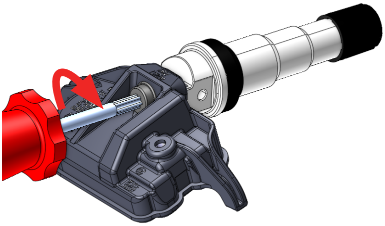
・クランプインバルブのみを先にホイールへ取り付けると、センサー送信機本体が正しい向きに取り付けできなくなる場合があります。必ずセンサー送信機を組み立ててからホイールに取り付けてください。
・センサー送信機本体のシャフト挿入穴とクランプインバルブの端の形状を合わせ、真っ直ぐに差し込んでください。



・クランプインバルブ用締結ボルトを取り付け、トルクスドライバーとトルクスビット T10 を使用して、規定のトルク 1.2 ± 0.2 Nm で締め付けてください。

警告	ボルトは必ず付属のクランプインバルブ用締結ボルト (黒色) を使用してください。 スナップインバルブ用締結ボルトとは材質が異なるため、緩みや錆の発生原因となります。





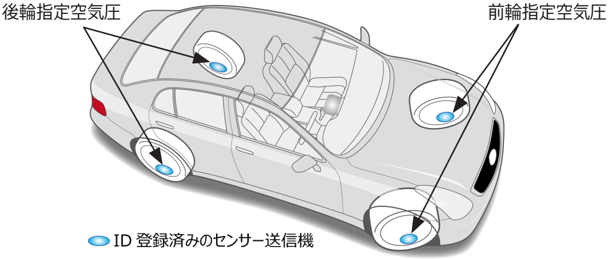
(2) ホイールへの取り付け方法

・センサー送信機のホイールへの装着手順（38 ページ）に従い、センサー送信機をホイールに取り付けます。

2-9 受信機の設定・登録作業

(1) 概要

・正しくタイヤ空気圧を検知するためには、 前輪と後輪ごとに車両の指定空気圧を設定し、各輪ごとにセンサー送信機の装着位置を登録する必要があります。



メモ	受信機には、以下の設定が必要です。 ①センサー送信機 4 個の装着位置の登録 (各輪ごと) ②指定空気圧の設定 (前輪および後輪ごと)

必要工具

品名	用途
トリガーツール（デジタルゲージ）	センサー送信機の受信機への登録作業に使用します。
スマートフォンアプリ「TPMS」	指定空気圧の設定、センサー送信機 ID 再登録作業に使用します。
バルブコア回し （トリガーツール（デジタルゲージ）やスマートフォンアプリ「TPMS」を所有していない場合）	タイヤ空気圧を減圧させて、センサー送信機 ID 再登録作業に使用します。

(2) 作業内容に準じた必要作業について

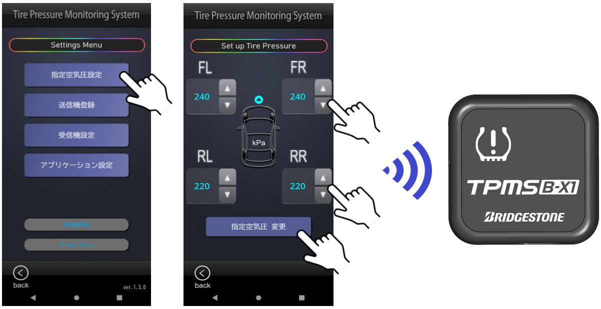
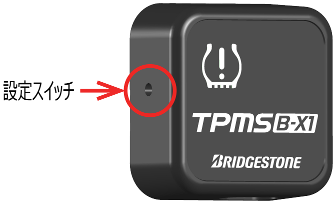
・下記の作業内容に適応した受信機の設定や登録作業を行ってください。

No.	作業内容	必要作業	参照ページ
1	新品のシステム取り付け	前後輪の指定空気圧の設定 （初期登録位置にセンサー送信機を取り付けした場合）	45 ページ
2	タイヤローテーション実施時	センサー送信機 ID の再登録	51 ページ
3	別のセンサー送信機付きタイヤセットに交換	センサー送信機 ID の再登録 前後輪の指定空気圧の設定 ※いずれの場合も指定空気値を確認し、必要に応じて再設定をお願いします。	51 ページ 45 ページ
4	センサー送信機を交換		
5	受信機を交換		
6	受信機に登録されている指定空気圧値を変更	前後輪の指定空気圧の設定	45 ページ
7	タイヤを交換し指定空気圧が変更	前後輪の指定空気圧の設定	45 ページ

2-10 受信機への指定空気圧値の設定方法

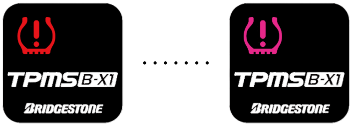
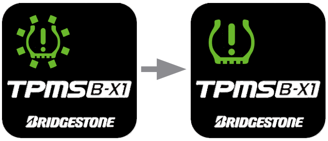
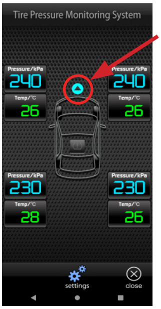
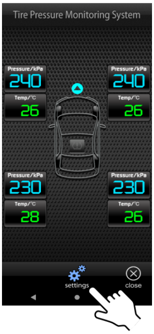
(1) 指定空気圧値の設定方法

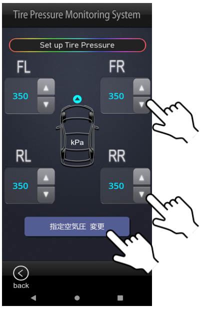
・指定空気圧の受信機への設定作業には、以下の 2 通りの方法があります。

①スマートフォンアプリ「TPMS」での指定空気圧設定値を受信機へ設定	参照ページ
	46 ページ
②受信機の「設定スイッチ」を操作して設定	参照ページ
	48 ページ

メモ	指定空気圧の初期値は 350kPa に設定されています。車両へ取り付ける際は、 必ず車両の指定空気圧に合わせて設定してください。

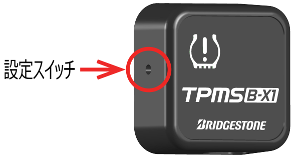
(2) スマートフォンアプリ「TPMS」を使用した指定空気圧値の設定方法

作業手順	受信機 LED ランプ表示 ／スマートフォンアプリ「TPMS」表示	操作内容
1. 受信機の電源 ON	 LED ランプ 9 色が順番に点灯 	・電源ケーブルを接続し、車両の電源 ON にします。 ・受信機は、電源受給時の初期状態になります。
2. センサー送信機データの受信待ち状態	 緑色点滅　緑色点灯	・受信機 LED ランプが「緑色点滅」になります。(タイヤ空気圧が正常の場合) ・車両を時速 40km で走行し、センサー送信機 4 個からのデータを受信すると、受信機 LED ランプは「緑色点灯」になります。なお、停車中でも「緑色点灯」になる場合があります。
3. スマートフォンアプリ「TPMS」を起動	 通信表示（水色） 青色点灯	・受信機とスマートフォンの Bluetooth 接続が成立すると、スマートフォンアプリ「TPMS」の通信表示（水色）と受信機 LED ランプが「青色点灯」に変わります。 **メモ** ・Bluetooth 接続が成立するまでに数秒かかります。
4. 指定空気圧設定画面の表示		・「settings」をタップして Settings Menu(設定メニュー) 画面を表示します。 ・「指定空気圧設定」をタップします。

作業手順	受信機 LED ランプ表示 ／スマートフォンアプリ「TPMS」表示	操作内容
5. 前後輪の 指定空気圧値 の設定	 指定空気圧の初期値は 350kPa です。 必ず車両の指定空気圧に設定してください。	・設定されている車両の指定空気圧値を確認します。 ・圧力値「▲ ▼」ボタンをタップして、前後輪の指定空気圧値を設定します。 ・正しい指定空気圧値であることを確認し、「指定空気圧 変更」をタップします。 **危険** ・指定空気圧値を誤って設定すると、低空気圧警告が正しく機能しなくなる可能性があります。
6. 指定空気圧変更 の確認画面	 白色点灯 青色点灯	・指定空気圧値の変更を行う場合、「はい」をタップします。 ・受信機 LED ランプが 5 秒間白色で点灯し、受信機へ変更内容を設定します。 ・受信機への設定が完了すると、受信機の表示は使用中の画面に戻ります。
7. 設定作業終了		・「back」ボタンを 2 回タップして、メイン画面（タイヤ空気圧・温度表示画面）に戻します。

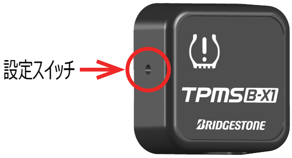
(3) 受信機の設定スイッチを使用した指定空気圧値の設定方法

①設定されている指定空気圧値の確認方法

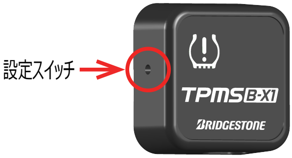
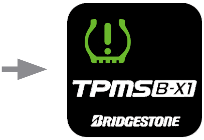
項目	操作／受信機 LED ランプ表示
1. 設定されている指定空気圧値確認	・受信機の設定スイッチを一度押して、すぐに離します。 
2. 設定されている前輪の指定空気圧値を表示	赤色点滅回数 100kPa 単位 黄色点滅回数 10kPa 単位 例）230 kPa に設定されている場合は、「赤色点滅 2 回」「黄色点滅 3 回」 ※初期設定値は 350kPa に設定されています。 前輪の設定表示は、2 回繰り返されます。
3. 前輪⇒後輪表示に遷移	 白色点灯 2 秒間
4. 設定されている後輪の指定空気圧値を表示	赤色点滅回数 100kPa 単位 黄色点滅回数 10kPa 単位 例）250 kPa に設定されている場合は、「赤色点滅 2 回」「黄色点滅 5 回」 ※初期設定値は 350kPa に設定されています。 後輪の設定表示は、2 回繰り返されます。
5. 確認完了	・受信機 LED ランプは、2 秒間白色に点灯した後、現在の状態を示す表示になります。 白色点灯 2 秒間 → 状態表示 例）緑色点灯

②設定されている指定空気圧値の変更方法

a) **前輪**の指定空気圧値を変更する場合

項目	操作／受信機 LED ランプ表示
1. 受信機の「設定スイッチ」を 長押し	・設定されている**前輪**の指定空気圧値が受信機 LED ランプ表示されている間に、**「設定スイッチ」を 3 秒以上**長押しします。 
2. 指定空気圧設定モードに遷移	・受信機 LED ランプが消灯します。 消灯
3. **前輪**の指定空気圧値を変更	・スイッチを押すと設定されている**前輪**の指定空気圧値が表示されます。 赤色点滅回数 100kPa 単位 黄色点滅回数 10kPa 単位 例) 230 kPa に設定されている場合は、 「赤色点滅 2 回」 「黄色点滅 3 回」 ※初期設定値は 350kPa に設定されています。 ・この表示は 2 回繰り返されます。 ・上記の表示がされている間にスイッチを押します。 ・**1 回押す**ごとに **+10kPa** 上昇します。 なお、350kPa まで上昇した後は、180kPa に戻ります。 ・スイッチを押して、設定したい指定空気圧値にします。
4. **前輪**の指定空気圧値を保存	・受信機 LED ランプは、**5 秒間**白色に点灯した後、現在の状態を示す表示になります。 白色点灯 5 秒間 状態表示 例）緑色点灯

b) **後輪**の指定空気圧値を変更する場合

項目	操作／受信機 LED ランプ表示
1. 受信機の「設定スイッチ」を 長押し	・設定されている**後輪**の指定空気圧値が受信機 LED ランプ表示されている間に、**「設定スイッチ」を 3 秒以上**長押しします。 
2. 指定空気圧設定モードに遷移	・受信機 LED ランプが消灯します。 消灯
3. **後輪**の指定空気圧値を変更	・スイッチを押すと設定されている**後輪**の指定空気圧値が表示されます。 赤色点滅回数 100kPa 単位 黄色点滅回数 10kPa 単位 例）250 kPa に設定されている場合は、 「赤色点滅 2 回」 「黄色点滅 5 回」 ※初期設定値は 350kPa に設定されています。 ・この表示は 2 回繰り返されます。 ・上記の表示がされている間にスイッチを押します。 ・**1 回押す**ごとに **+10kPa** 上昇します。 なお、350kPa まで上昇した後は、180kPa に戻ります。 ・スイッチを押して、設定したい指定空気圧値にします。
4. **後輪**の指定空気圧値を保存	・受信機 LED ランプは、**5 秒間**白色に点灯した後、現在の状態を示す表示になります。 白色点灯 5 秒間  状態表示 例）緑色点灯

2-11 センサー送信機 ID の再登録方法

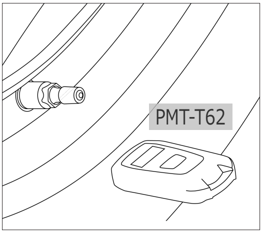
(1) 概要

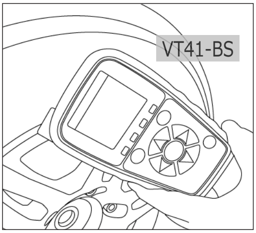
①スマートフォンアプリ「TPMS」または受信機ボタン操作で、受信機をセンサー送信機 ID 登録モードにします。

②トリガーツール（デジタルゲージ）またはタイヤ空気圧の減圧（左前輪⇒右前輪⇒右後輪⇒左後輪の順番）によって、センサー送信機から電波送信を行います。

③センサー送信機からの電波を受信機が受信し、センサー送信機の ID 登録を行います。

トリガーツール（デジタルゲージ）を使用したセンサー送信機の電波送信

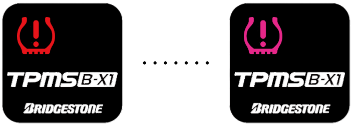
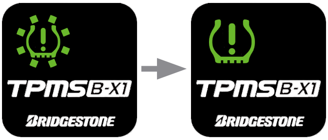
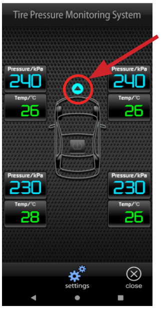


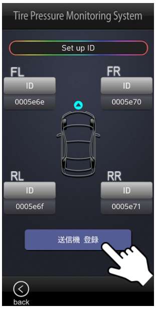
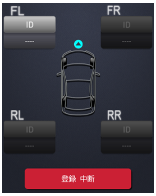
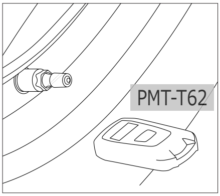
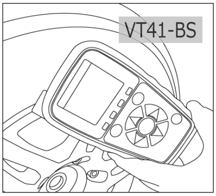
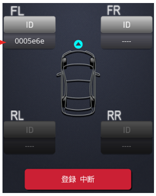


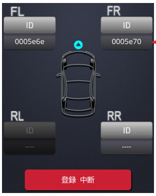
タイヤ空気圧を減圧して
センサー送信機の電波送信

30 秒以内に 30kPa 以上減圧

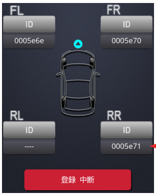
(2) スマートフォンアプリ「TPMS」とトリガーツール（デジタルゲージ）を使用したセンサー送信機 ID の再登録方法

作業手順	受信機 LED ランプ表示 ／スマートフォンアプリ「TPMS」表示	操作内容
1. 受信機の電源 ON	 LED ランプ 9 色が順番に点灯 	・電源ケーブルを接続し、車両の電源 ON にします。 ・受信機が電源受給時の初期状態になります。
2. センサー送信機データの受信待ち状態	 緑色点滅　緑色点灯	・受信機 LED ランプが「緑色点滅」になります。(タイヤ空気圧が正常の場合) ・車両を時速 40km で走行し、センサー送信機 4 個からのデータを受信すると、受信機 LED ランプは「緑色点灯」になります。なお、停車中でも「緑色点灯」になる場合があります。
3. スマートフォンアプリ「TPMS」を起動	 例）青色点灯	・受信機とスマートフォンの Bluettooth 接続が成立すると、スマートフォンアプリ「TPMS」の通信表示（水色）と受信機 LED ランプが「青色点滅」または「青色点灯」に変わります。 **メモ** ・Bluetooth 接続が成立するまでに数秒かかります。
4. 送信機登録画面の表示		・「settings」をタップして Settings Menu(設定メニュー) 画面を表示します。 ・「送信機登録」をタップします。

作業手順	操作内容／スマートフォンアプリ「TPMS」表示	受信機 LED ランプ表示
5.ID 登録モードに遷移 センサー送信機データの 受信待ち	 「送信機　登録」を タップします。 FL(左前輪) の表示が 「−−−」になります。 	 ピンク色点灯
6. トリガーツール (デジタルゲージ）で センサー送信機データ を送信	・センサー送信機が装着されているタイヤの側面にトリガーツール（デジタルゲージ）を用いてトリガーをかけます。   トリガーをかける順序は下記のとおりです。 ①左前輪 (FL) ②右前輪 (FR) ③右後輪 (RR) ④左後輪 (RL)	
7. 左前輪（FL）の受信	・左前輪（FL）のセンサー送信機にトリガーをかけ、データを電波送信します。 ・FL 表示部にセンサー送信機 ID が表示されます。 FL 表示部 	 水色点灯 （FL 受信）

<table>
<tr><th>作業手順</th><th>操作内容／スマートフォンアプリ「TPMS」表示</th><th>受信機 LED ランプ表示</th></tr>
<tr><td>8. 右前輪（FR）の受信</td><td>・右前輪（FR）のセンサー送信機にトリガーをかけ、データを電波送信します。
・FR 表示部にセンサー送信機 ID が表示されます。


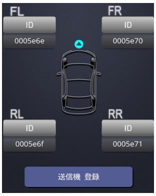
FR 表示部</td><td>

橙色点灯
（FR 受信）</td></tr>
<tr><td>9. 右後輪 (RR) の受信</td><td>・右後輪（RR）のセンサー送信機にトリガーをかけ、データを電波送信します。
・RR 表示部にセンサー送信機 ID が表示されます。


RR 表示部</td><td>

黄緑色点灯
（RR 受信）</td></tr>
<tr><td>10. 左後輪 (RL) の受信</td><td>・左後輪（RL）のセンサー送信機にトリガーをかけ、データを電波送信します。
・RL 表示部にセンサー送信機 ID が表示されます。
RL 表示部

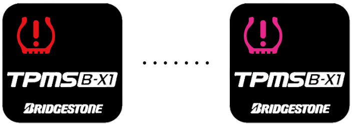
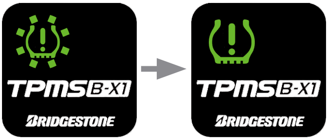
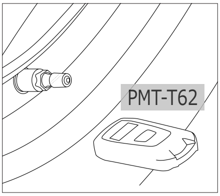
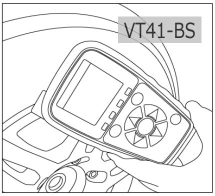
</td><td>

4 輪受信完了すると
約 5 秒間 白色点灯
（RL 受信）</td></tr>
<tr><td>11. センサー送信機
4 個の ID 登録完了</td><td>・各表示部にセンサー送信機 ID が表示されます。


・「送信機 登録」はタップしないでください。
・ 「back」ボタンをタップしてタイヤ空気圧表示画面に戻ります。</td><td>

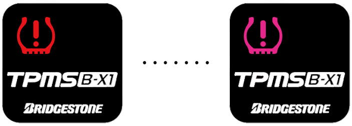
状態表示
例) 青色点灯</td></tr>
</table>

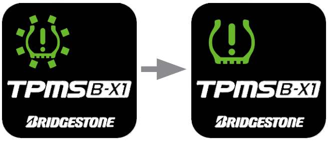
(3) 受信機の設定スイッチ操作とトリガーツール（デジタルゲージ）を使用したセンサー送信機 ID の再登録方法

作業手順	操作内容	受信機 LED ランプ表示
1. 受信機の電源 ON	・電源ケーブルを接続し、車両の電源 ON にします。 ・受信機が電源受給時の初期状態になります。	 LED ランプ 9 色が順番に点灯
2. センサー送信機データの受信待ち状態	・受信機 LED ランプが「緑色点滅」になります。(タイヤ空気圧が正常の場合) ・センサー送信機 4 個のデータを受信すると受信機 LED ランプが、「緑色点灯」に変わります。	 緑色点滅　緑色点灯 ・スマートフォン未接続時
3. 受信機 をセンサー送信機 ID 登録モードに設定	・受信機の「設定スイッチ」を **10 秒間**長押しします。 設定スイッチ	 ピンク色点灯
4. トリガーツール（デジタルゲージ）でセンサー送信機データを送信	・センサー送信機が装着されているタイヤの側面にトリガーツール（デジタルゲージ）を使用してトリガーをかけます。  	
5. センサー送信機の電波送信順序	・トリガーをかける順序は下記のとおりです。 ①左前輪 (FL) ②右前輪 (FR) ③右後輪 (RR) ④左後輪 (RL)	

作業手順	操作内容	受信機 LED ランプ表示
6. 左前輪（FL）の受信	・左前輪（FL）のセンサー送信機に トリガーをかけ、データを電波送信します。	 水色点灯 （FL 受信）
7. 右前輪（FR）の受信	・右前輪（FR）のセンサー送信機に トリガーをかけ、データを電波送信します。	 橙色点灯 （FR 受信）
8. 右後輪（RR）の受信	・右後輪 (RR）のセンサー送信機に トリガーをかけ、データを電波送信します。	 黄緑色点灯 （RR 受信）
9. 左後輪（RL）の受信	・左後輪（RL）のセンサー送信機に トリガーをかけ、データを電波送信します。	 4 輪受信完了すると 約 5 秒間 白色点灯 （RL 受信）
10. センサー送信機 4 個の ID 登録完了	・受信機 LED ランプの白色が消灯後、 空気圧状態を表示します。	 状態表示 例）緑色点灯

(4) 受信機の設定スイッチ操作とタイヤ空気圧の減圧を使用したセンサー送信機 ID の再登録方法

<table>
<tr><th>作業手順</th><th>操作内容</th><th>受信機 LED ランプ表示</th></tr>
<tr><td>1. 受信機の電源 ON</td><td>・電源ケーブルを接続し、車両の電源 ON にします。
・受信機が電源受給時の初期状態になります。</td><td>

LED ランプ 9 色が順番に点灯
 </td></tr>
<tr><td>2. センサー送信機データの受信待ち状態</td><td>・受信機 LED ランプが「緑色点滅」になります。(タイヤ空気圧が正常の場合)
・センサー送信機 4 個のデータを受信すると受信機 LED ランプが、「緑色点灯」に変わります。</td><td>

緑色点滅　緑色点灯
・スマートフォン未接続時</td></tr>
<tr><td>3. 受信機 をセンサー送信機 ID 登録モードに設定</td><td>・受信機の「設定スイッチ」を
10 秒間長押しします。
設定スイッチ
</td><td>

ピンク色点灯</td></tr>
<tr><td>4. バルブコアを緩めてタイヤ空気圧を抜き、送信機データを送信</td><td colspan="2">・バルブコアを緩めます。

・30 秒以内に 30kPa 以上減圧させます。</td></tr>
<tr><td>5. センサー送信機の電波送信順序</td><td colspan="2">・下記の順序でバルブコアを緩めてタイヤ空気を抜きセンサー送信機から電波を送信させます。
①左前輪 (FL)
②右前輪 (FR)
③右後輪 (RR)
④左後輪 (RL)</td></tr>
</table>

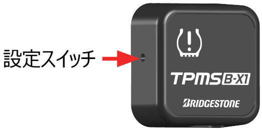
作業手順	操作内容	受信機 LED ランプ表示
6. 左前輪（FL）の受信	・左前輪（FL）のタイヤ空気を抜き、 センサー送信機からデータを電波送信します。	 水色点灯 （FL 受信）
7. 右前輪（FR）の受信	・右前輪（FR）のタイヤ空気を抜き、 センサー送信機からデータを電波送信します。	 橙色点灯 （FR 受信）
8. 右後輪（RR）の受信	・右後輪（RR）のタイヤ空気を抜き、 センサー送信機からデータを電波送信します。	 黄緑色点灯 （RR 受信）
9. 左後輪（RL）の受信	・左後輪（RL）のタイヤ空気を抜き、 センサー送信機からデータを電波送信します。	 4 輪受信完了すると 約 5 秒間 白色点灯 （RL 受信）
10. センサー送信機 4 個の ID 登録完了	・受信機 LED ランプの白色が消灯後、 空気圧状態を表示します。	 状態表示 例）黄色点灯 ・「黄色点灯」は指定空気圧 -15% の場合です。 ・受信機 LED ランプ色は状況に応じた色になります。
11. 4 輪のタイヤ空気圧 を調整します。	・特に「タイヤ空気圧の減圧」を行った場合は、タイヤ空気圧を確認し、調整してください。	

2-12 指定空気圧値の受信機設定・登録データの確認方法

(1) スマートフォンアプリ「TPMS」を使用した指定空気圧値の確認方法
受信機と Bluetooth 接続が成立した状態で確認してください。

①「settings」をタップ　②「指定空気圧設定」をタップ　③各輪に設定されている指定空気圧値を確認

(2) 受信機の設定スイッチを使用した指定空気圧値の確認方法

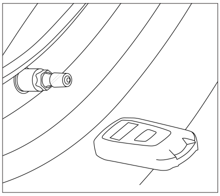
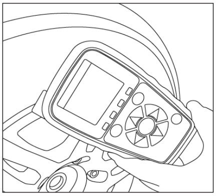
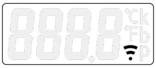
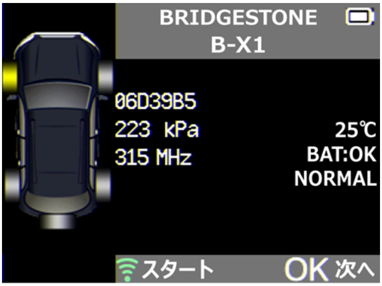
作業手順	操作／受信機 LED ランプ表示
1. 登録されている 指定空気圧値確認	・受信機左横の「設定スイッチ」を 1 回押して離します。 
2. 登録されている前輪の 指定空気圧値を表示	赤色点滅回数 100kPa 単位　黄色点滅回数 10kPa 単位 例) 230 kPa に設定されている場合は、 「赤色点滅 2 回」、「黄色点滅 3 回」 ※初期設定値は 350kPa に設定されています。 白色点灯 約 2 秒間
3. 登録されている後輪の 指定空気圧値を表示 ↓ この表示の後、タイヤ 空気圧の状態表示に なります。	赤色点滅回数 100kPa 単位　黄色点滅回数 10kPa 単位 例) 250 kPa に設定されている場合は、 「赤色点滅 2 回」、「黄色点滅 5 回」 ※初期設定値は 350kPa に設定されています。 白色点灯 約 2 秒間

2-13 各輪のセンサー送信機の受信機設定・登録データの確認方法

(1) スマートフォンアプリ「TPMS」とトリガーツール（デジタルゲージ）を使用したセンサー送信機 ID の照合方法
受信機と Bluetooth 接続が成立した状態で確認してください。

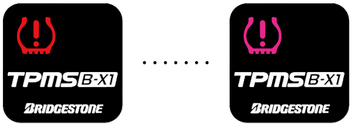
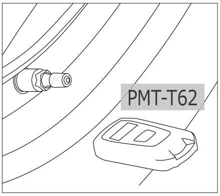
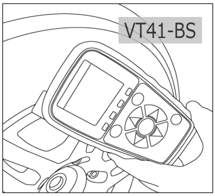
①「settings」をタップ　②「送信機登録」をタップ　③設定されている各輪のセンサー送信機 ID を表示

・トリガーツール（デジタルゲージ）で、各輪に装着したセンサー送信機IDを読み取ります。

<table>
<tr><th>デジタルゲージ PMT-T62（オプション品）</th><th>トリガーツール VT41-BS（販売店様用）</th></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td> トリガー送信中
 タイヤ内圧力
 タイヤ内温度
 センサー送信機 ID 表示
 センサー送信機 ID 上 3 桁
 センサー送信機 ID 下 4 桁</td><td></td></tr>
</table>

・スマートフォンアプリ「TPMS」に表示されたセンサー送信機IDとトリガーツール（デジタルゲージ）に表示されたセンサー送信機IDが一致しているかを確認してください。

(2) 受信機とトリガーツール（デジタルゲージ）を使用したセンサー送信機 ID の照合方法

作業手順	操作方法	受信機 LED ランプ表示
1. 受信機の電源 ON	・電源ケーブルを接続し、車両の電源 ON にします。 ・受信機が電源受給時の初期状態になります。	 LED ランプ９色が順番に点灯
2. センサー送信機データの受信待ち状態	・受信機 LED ランプが「緑色点滅」になります。(タイヤ空気圧が正常の場合) ※４輪データの受信後（緑色点灯や青色点灯時）やタイヤ空気圧表示の低空気圧状態では ID 照合はできません。	 緑色点滅
3. センサー送信機からの電波送信	・トリガーツール（デジタルゲージ）を使用して、センサー送信機からの電波送信を行います。 	
4. センサー送信機の電波送信順序	・以下の順序でトリガーツール（デジタルゲージ）を使用してセンサー送信機から電波を送信させ、センサー送信機の ID を照合します。 ①左前輪 (FL) ②右前輪 (FR) ③右後輪 (RR) ④左後輪 (RL)	

作業手順	操作方法	受信機 LED ランプ表示
5. 左前輪（FL）の受信	・左前輪（FL）のセンサー送信機からデータを電波送信します。	 ピンク色点滅（FL 受信）
6. 右前輪（FR）の受信	・右前輪（FR）のセンサー送信機からデータを電波送信します。	 水色点滅（FR 受信）
7. 右後輪（RR）の受信	・右後輪（RR）のセンサー送信機からデータを電波送信します。	 橙色点滅（RR 受信）
8. 左後輪（RL）の受信	・左後輪（RL）のセンサー送信機からデータを電波送信します。	 黄緑色点滅（RL 受信）
9. センサー送信機 4 個の ID 照合完了	・4 輪受信完了	 約 5 秒間 白色点灯
10. タイヤ空気圧状態を表示		 状態表示 例）緑色点灯 ・受信機 LED ランプ色は状況に応じた色になります。

2-14 受信機シリアルナンバーの確認方法

・スマートフォンアプリ「TPMS」にて受信機シリアルナンバーを確認できます。
受信機と Bluetooth 接続が成立した状態で確認してください。

①「settings」をタップ　②「受信機設定」をタップ　③受信機シリアルナンバー表示

受信機シリアルナンバーを確認できます。

<table>
<tr><th>分類</th><th>現象</th><th>考えられる要因</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td>1)
電源
入力</td><td>電源入力しても受信機
LEDランプが点灯しない</td><td colspan="2" rowspan="6">「1-9 受信機が正常に動作しない場合は」を参照してください
⇒ 19 ～ 20ページ</td></tr>
<tr><td rowspan="5">2)
停車や走行時</td><td>受信機 LED ランプが点滅（★緑色または★青色）から点灯（●緑色または●青色）に変わらない</td></tr>
<tr><td>タイヤの空気圧が適正であるにもかかわらず、受信機 LED ランプが減圧（●黄色点灯、●赤色点灯、★赤色点滅）の表示になる</td></tr>
<tr><td>受信機LEDランプが
★黄色点滅に変わる</td></tr>
<tr><td>受信機 LED ランプが
●赤色点灯と●黄色点灯の交互点灯を繰り返す</td></tr>
<tr></tr>
<tr><td rowspan="2">3)
指定空気圧
設定時</td><td>スマートフォンアプリ「TPMS」操作で指定空気圧の設定ができない</td><td>操作が正しくされていない</td><td>取扱説明書に従って正しく操作してください
⇒ 46 ～ 47 ページ</td></tr>
<tr><td>受信機操作で指定空気圧の設定ができない</td><td>操作が正しくされていない</td><td>取扱説明書に従って正しく操作してください
⇒ 48 ～ 50 ページ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4)
センサー送信機
ID登録時</td><td>スマートフォンアプリ
「TPMS」操作で設定ができない</td><td>操作が正しくされていない</td><td>取扱説明書に従って正しく操作してください
⇒ 52 ～ 54 ページ</td></tr>
<tr><td>受信機操作で設定ができない</td><td>操作が正しくされていない</td><td>取扱説明書に従って正しく操作してください
⇒ 55 ～ 56 ページ
⇒ 57 ～ 58 ページ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5)
センサー送信機
ID照合時</td><td>スマートフォンアプリ
「TPMS」操作で照合ができない</td><td>操作が正しくされていない</td><td>取扱説明書に従って正しく操作してください
⇒ 60 ページ</td></tr>
<tr><td>受信機操作で照合ができない</td><td>操作が正しくされていない</td><td>取扱説明書に従って正しく操作してください
⇒ 61 ～ 62 ページ</td></tr>
</table>

分類	現象	考えられる要因	対処方法
6) スマート フォンアプリ 「TPMS」	スマートフォンアプリ 「TPMS」がインストール できない	インターネット接続の問題	電波状況の良い場所で試すか、Wi-Fi接続を一旦オフにして再度オンにする、または別のWi-Fiネットワークに接続してみてください
		スマートフォンの ストレージ容量不足	スマートフォンのストレージの空き容量を十分に確保してください
		端末がスマートフォンアプリに対応していない	スマートフォンのOSを最新バージョンにアップデートしてください。アプリの動作要件（対応OSバージョンなど）も確認してください
		Google Play アプリ または App Store アプリの問題	各アプリを再起動してください。また、各アプリのキャッシュをクリアするのも効果的です
		アカウントの問題 （Google アカウントや Apple ID）	ご利用のアカウントに不具合や制限がないか確認ください
		セキュリティ設定	スマートフォンのセキュリティ設定をご確認の上、必要に応じて設定を調整してください （例：インストール制限がかかっていないか等）
	スマートフォンアプリ 「TPMS」が起動しない、 またはフリーズする	スマートフォンアプリの不具合またはデータの破損	一度アプリをアンインストールし、最新バージョンを再度インストールしてください
		OS とアプリの互換性の問題	スマートフォンのOS、アプリバージョンが古い場合、アプリが正常に動作しないことがあります。TPMSアプリと、スマートフォンOSを最新バージョンにアップデートしてください
		キャッシュの問題	アプリやスマートフォンの設定メニューから、「キャッシュを削除」を実行してください （Androidのみ）
		メモリ不足	たくさんのアプリを同時に起動していると、動作が遅くなったりフリーズすることがあります。使っていないアプリをすべて終了させてから、TPMSアプリを起動してください
		セキュリティ設定	スマートフォンのセキュリティ設定で、TPMSアプリの実行やインストールが制限されていないか確認し、必要に応じて設定を変更してください
	受信機とスマートフォンが Bluetooth接続できない	Bluetooth がオフになっている	スマートフォンの設定からBluetoothをオンにしてください
		受信機が Bluetooth の範囲外にある	受信機とスマートフォンを近づけてください
		他の Bluetooth 通信機器との干渉	他のBluetooth機器が近くで動作していると接続が不安定になることがあります。他のBluetooth機器の通信をオフにしてください
		ソフトウェアの問題 または互換性の問題	スマートフォンのOSや、スマートフォンアプリが古い場合、アプリが正常に動作しないことがあります。OSとアプリを最新バージョンにアップデートしてください
		バッテリー不足	スマートフォンのバッテリー残量が少ないとBluetooth接続が不安定になることがあります。十分に充電してから再度お試しください

分類	現象	考えられる要因	対処方法
6) スマート フォンアプリ 「TPMS」	走行中タイヤ空気圧や 温度の表示が変動しない	受信機がセンサー送信機の 電波を受信できない	「故障かなと思ったら」の 2) 停車や走行時 を参照してください
	正しい車輪位置のタイヤ 空気圧と温度表示をしない	センサー送信機の ID が正しく 登録されていない	「故障かなと思ったら」の 4) センサー送信機 ID 登録時を参照してください
	1 輪または複数輪タイヤ 空気圧と温度表示をしない	受信機がセンサー送信機の 電波を受信できない	「故障かなと思ったら」の 2) 停車や走行時 を参照してください
7) その他	タイヤ内から異音がする	センサー送信機がタイヤ内に 脱落している	タイヤを取り外して、点検してください
	エアが漏れる	ナットが緩んでいる (Type C の場合)	ナットの締付けトルクを確認し、緩みがある場合 は 4 ± 0.6Nm に増し締めしてください
		ゴムバルブ (Type S)、または グロメット (Type C) の劣化	石鹸水等でエア漏れ箇所を確認し、部品交換 してください

4-1 製品仕様一覧

センサー送信機

	Type S (スナップインバルブタイプ)	Type C (クランプインバルブタイプ)
TPMS 送信周波数	315MHz	
動作温度範囲	-40℃～ +100℃	
最大入力圧力	380 kPa (ゲージ圧)	
重量	約 22 g	約 23 g
ホイール取り付け	スナップイン方式	クランプイン方式
適用バルブ孔径	φ 11.5	
電波法	特定小電力無線局	

受信機

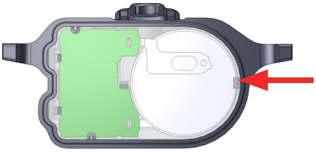
TPMS 受信周波数	315MHz
Bluetooth 通信周波数	2.4GHz
動作温度範囲	-20℃ ～ +85℃（結露なきこと）
指定空気圧範囲	180 kPa ～ 350 kPa
重量	約 26 g
消費電力	150 mW 以下
使用電源	DC 5V (USB 電源)
電波法	特定小電力無線局

USB 電源ケーブル

車両側コネクタ	Type-A
受信機側コネクタ	Type-C
長さ	1.5m

4-2 製品の廃却方法

・本製品は、各地方自治体の規制や法令に従い、正しく廃棄を行ってください。
・センサー送信機内部には、コイン型リチウム電池が搭載されています。(電池交換不可)
・センサー送信機を廃棄する際は、ドライバーなどを使用してコイン型リチウム電池を取り外し、分別して廃棄を行ってください。



センサー送信機のコイン型リチウム電池
(ポッティング剤を除去して取り外します)

アフターサービスについて

■無償サービス

お買い上げの後 1 年以内 (製品保証期間) に、マニュアル通りの適切な使い方のもとで製品が故障した場合にのみ無償サービスを受けられます。

■有償サービス

・ 製品の保証期間を過ぎた場合
・ 故障に該当しない場合
・ 故障ではない場合にサービスを要請すると料金が発生しますので、必ずマニュアルをお読みください。
・ 誤操作や不適切なメンテナンス・保管により不具合が発生した場合
・ システムに悪影響を及ぼすような改造により不具合が発生した場合
・ 消耗品やパーツ (ゴム製品を含む) のご使用により交換の必要がある場合
・ 地震、洪水、その他の自然災害により不具合が発生した場合
・ 不適切なパーツの使用により不具合が発生した場合
・ 使用者の不適切な取り付けにより不具合が発生した場合

■注意事項

サービスを受けられる際には、必ず製品保証書を提示してください。
保証書は日本国内のみ有効であり、再発行はいたしません。

■免責条項

本製品は、予防警告及び便利機能を備えた製品ですが、弊社は車両及びタイヤ損傷、その他の事由で発生したいかなる事故に対しても、民事・刑事上の責任を負いかねます。

ブリヂストンリテールジャパン株式会社
東京都小平市小川東町3 - 1 - 1 B-Trinity 5階

お客様お問い合わせフォーム
https://cs.bridgestone.co.jp/webapp/form/15090_kiw_15/index.do
TPMSのお問い合わせは「タイヤ/ホイールに関するお問い合わせ」と「ホイール」をご選択ください。

TPMS B-X1

Tire Pressure Monitoring System

2026年2月作成